PERIODICAL

Operations Jun

8

#68

LIBRARY
JUN 9 1960
FISH & WILDLIFE SERVICE

ND
C
B

鮪漁業　第六十八号　昭和三十五年四月十日発行　（毎月一回十日発行）
昭和三十一年二月二十三日　第四種郵便物認可

鮪漁業

TUNA FISHING

鮪漁業研究会

No. 68, 1960

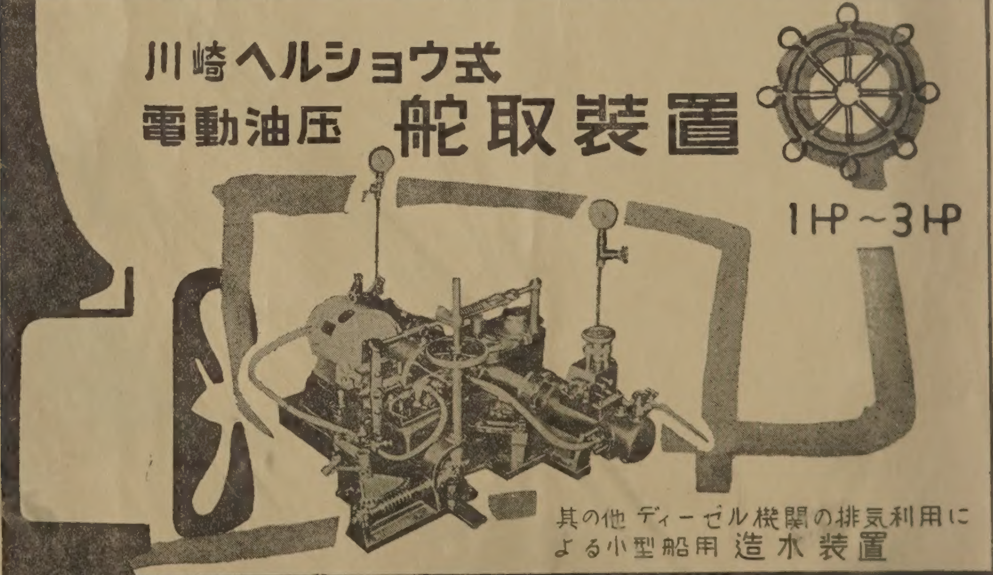
クレモナ

万漁 鮪延縄（10番手）

クレモナ10番手糸は、特に太物製品に適するように新しく製造した原糸です。その性能は従來の20番手糸と同様ですが、強力の点で特に優れているのが特長です。鮪延縄には、"用途に應じてより適した原糸クレモナ10番手製品をおすゝめします。

説明パンフレット進呈

倉敷レイヨン株式会社・大阪市北区梅田2・東京都中央区日本橋室町2



川崎ヘルショウ式
電動油圧 舵取装置

1HP～3HP

其の他 ディーゼル機關の排気利用による小型船用 造水装置

川崎重工業株式會社
神戸市生田区東川崎町二丁目一四〔電〕湊川(5)7531
東京支店 東京都港区芝田村町一丁目(日比谷ビル)〔電〕(59) 6101
（本紙名記入の上御一報下さればカタログ御送附致します）

1960

目 次

No. 68

鮪漁船紹介　☆第3 松 友 丸　☆第3 長 勝 丸
鮪漁況速報　1960年2月上旬，2月中旬，2月下旬.
鮪漁場図　1959年6月操業
1959年6月に於ける鮪漁場の漁況と海況の概要（南水研，神水試委託調査船105隻の資料による）……………1
Fishing and Sea Condition of Tuna Fishing grounds in June 1959 (By the data collected from the 105 appointed boats)……………1
1. 操業船の分布……………1　2. 海 況……………1
3. 漁 況……………1
A. 東部太平洋第3漁場……………1　B. 中部太平洋第1漁場……………1
C. 中部太平洋第2漁場……………1　D. 中部太平洋第3漁場……………2
E. 中部太平洋第4漁場……………2　F. 中部太平洋第5漁場……………2
G. 西部太平洋第1漁場……………2　H. 西部太平洋第2漁場……………2
I. 西部太平洋第3漁場……………2　J. 西部太平洋第4漁場……………2
K. 東部印度洋漁場……………2　L. 北，中，南部印度洋漁場……………2
月別，漁場別，鮪類漁獲調査表（1959年6月操業分）別表1……………4
月別，漁場別，鮪類漁獲調査表（1959年6月操業分）別表2……………8
鮪類水揚価格表（三崎）昭和35年3月……………7
マグロ漁況概況予報（1960年6月）……………神奈川県水産試験場……………13

会員レポート

大西洋の6月における漁況と海況……………会員 第12住吉丸 漁撈長 本多達一……………15
マーシャル・ギルバート東方海域の漁況と海況…会員 第12丸高丸 漁撈長 田中信男……………15

まぐろ研究報告の紹介 No.11

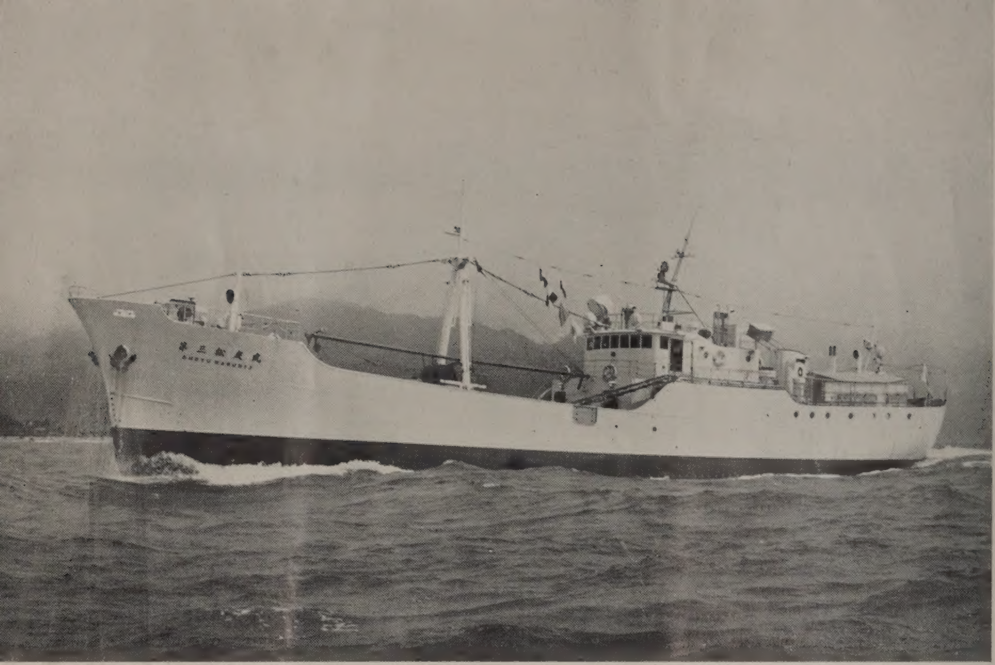
印度洋のキハダ漁況特に釣獲率と体長組成の経年変化………三村皓哉……………17
キハダの研究—Ⅲ 釣獲率及び体長組成にみられる経年変化（赤道太平洋）……………藪田，安楽，行縄……………17
大西洋赤道付近における日本マグロ延縄漁船の稼働状況及び同海域におけるマグロ類の漁況について（昭和34年度調査結果）　神奈川県水産試験場……………18
鮪漁業研究会会員名簿（続）……………22
本会の図書誌の分譲其の他について……………26

漁船の冷凍装置に定評ある

日新興業株式会社

本　　社　大阪市北区中之島3の3（朝日ビル）TEL. 北浜（23）9736（代表）
東京支店　東京都中央区銀座西6の3（朝日ビル）TEL. 銀座（57）7607（代表）
室戸出張所　高知県室戸市室津　TEL. 室戸 352
清水出張所　清水市三保本村四区　TEL. 清水（2）3507
三崎出張所　神奈川県三浦市三崎町西野34　TEL. 三浦 2751
石巻出張所　宮城県石巻市門脇町104　TEL. 石巻 505

施工船名
第3松友丸
第3長勝丸
第30事代丸
第36住吉丸
第5秋津丸
第5富士丸
（其の他約七百隻）



第 3 松 友 丸

船主	松村友吉商店（焼津市）
造船所	株式会社 三保造船所
主要寸法	長44. 50m×幅8. 00m×深3. 95m
総屯数	409. 50屯
魚艙容積	429. 82m³
燃料油艙	236. 11m³
速力	最大 12. 88節
主機	デーゼル800IP（赤阪鉄工） 1基
補機	デーゼル130IP（ヤンマー） 2基
無線	250W，80W（服部無線） 各1基
冷凍装置	日新興業設計施工 アンモニヤ直膨式 7″×5½″ 75IP 2基
レーダー（神戸工業），ロラン（東計），音測（産研），M. C. P. 其の他	各1式
竣工	昭和34年 8 月11日

魚群探知機
音響測深機
各種音響装置

株式会社

本社・工場　静岡県沼津市千本郷林 1907
東京営業所　東京都千代田区神田鍛治町 2 2

各種漁船用デイー
50馬力～

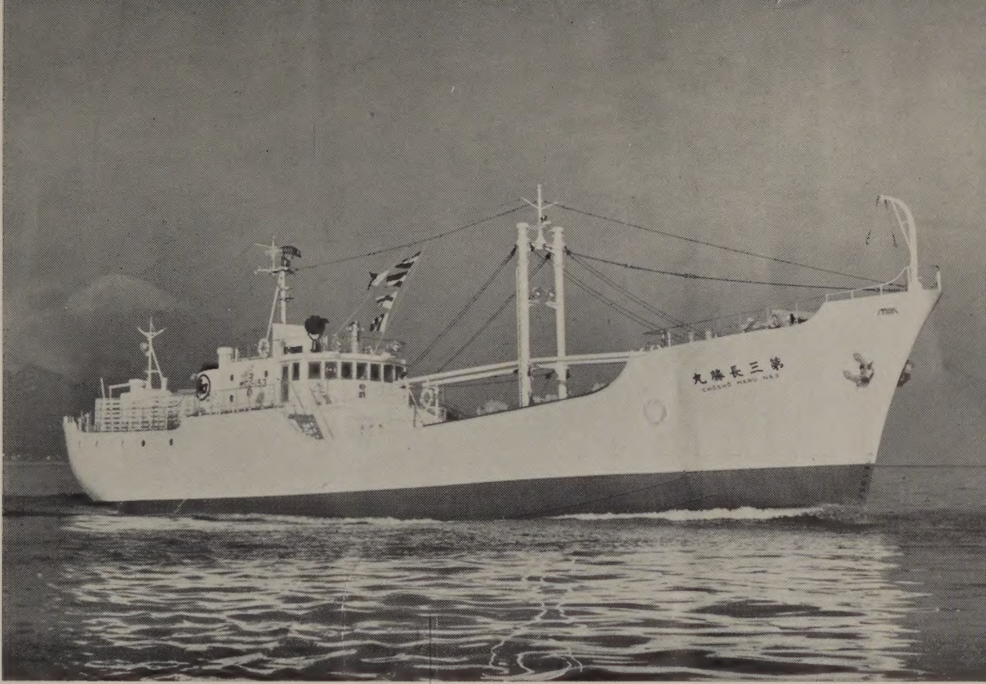
株式会社 **赤**

本社　東京都中央区銀座一ノ
北海道出張所　札幌市北四条西六丁目
大阪出張所　大阪市東区北浜四ノ三
工場　静岡県焼津市中港町

鋼製漁船・貨物船・其の他各種船舶の建造並に修理

株式会社 **三保造船所**

本社工場　静岡県清水市三保 3797　電話清水(2)代表2201番
東京事務所　東京都中央区八重洲3の7（東京建物ビル）　電話 東京（281）代表 6341番



第3長勝丸

産　研

(沼津港)電話(沼津)　1626・4543
(今川橋ビル)電話(神田)(251)0381・5444

ゼル機関は定評ある
5000馬力

阪鉄工所

三(千成屋ビル)電話京橋(561)4902～3
(北洋ビル)　電話(3)4507
八　電話北浜(23)4790
五九四　電話(焼津)2121～5

船主　奥山 勝(三重県南勢町)
造船所　株式会社 金指造船所

主要寸法	長43.21m×幅7.80m×深3.80m
総屯数	339.93屯
魚艙容積	382.20m^3
燃料油艙	181.20m^3
速力	最大　12.38節
主機	デーゼル750HP(阪神内燃機)　1基
補機	デーゼル130HP(川口鉄工)　2基
無線	250W, 75W(神戸工業)各1基
冷凍装置	日興新業設計施工 アンモニヤ直膨式　MA—6N　70HP　2基

レーダー(神戸工業),ローラン(東計),魚探(産研)
G.C.P.　其の他　各1式

竣工	昭和34年12月14日

各種鋼製漁船の建造並に修理

株式会社　金指造船所

本社工場　清水市三保4010→19　電話　清水(2)4111～5
塚間工場　清水市三保弁天492　電話　清水(2)5151～2
東京事務所　東京都港区芝田村町3ノ4　電話　芝(591)1306～8
三崎出張所　三浦市三崎町西野34　電話(三浦)2851

営業品目

商船用・漁船用並びに陸上用無線通信装置の製造

装備・補修一式

七洋電機株式会社

本社　東京都目黒区中目黒4丁目1315番地
電話在原（712）2525・2526・3314番

高性能を誇る!!

鮪漁船用送受信機

穂高通信工業株式会社

本社及工場　東京都新宿区下落合一丁目六番地
電話落合（951）1136番（代表）

——多年の技術と経験を生かす!——

営業種目　船舶・陸上

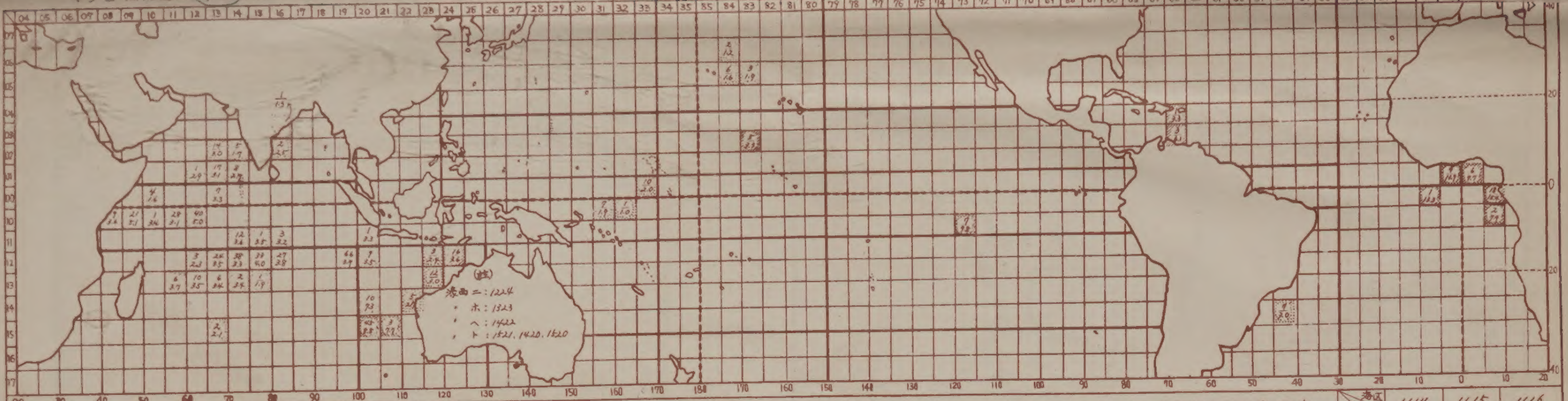
冷凍・冷蔵・製氷・冷房

冷凍・冷蔵・製氷工場
急速・空気凍結装置・冷房装置
冷凍機械器具・防熱装置
船舶冷凍冷蔵
設計　製作　施工

協同低温工業株式會社

本社　東京都千代田区神田佐久間町1—21（山伝ビル）
電話（291）6101～5（内線31～3）
（291）7506（直通）
札幌営業所　札幌市北五条西5丁目　電話 札幌(2)4895

マグロ漁況速報 1960年2月上旬　■ は7.5尾以上, ▨ は3.1尾から7.5尾まで, ☐ は3.1尾以下を示す。



(海区の分類)

符号	名称	範囲	符号	名称	範囲	符号	名称	範囲
アラ	アラビア海	N5°以北, E80°以西	南太4	南太平洋4	S10°-S30°, E130°-E170°	東太3	東太平洋3	N5°-S10°, W150°以東
ベン	ベンガル湾	N5°以北, E80°-E100°	〃5	〃 5	S30°以南, 〃	〃4	〃 4	S10°-S30°, 〃
中印	中印度洋	N5°-S10°, E100°以西	中太1	中太平洋1	N20°以北, E170°-W150°	〃5	〃 5	S30°以南, 〃
南印	南印度洋	S10°以南, E20°-E120°	〃2	〃 2	N5°-N20°, 〃	西大北	西大西洋北部	N5°以北, W30°以西
南支	南支那海	N5°以北, E120°以西	〃3	〃 3	N5°-S10°, 〃	〃中	〃 中部	N5°-S5°, 〃
西太1	西太平洋1	N20°以北, E120°-E170°	〃4	〃 4	S10°-S30°, 〃	〃南	〃 南部	S5°以南, 〃
〃2	西太平洋2	N5°-N20°, 〃	〃5	〃 5	S30°以南, 〃	東大北	東大西洋北部	0°以北, W30°以東
〃3	西太平洋3	N5°-S10°, 〃	東太1	東太平洋1	N20°以北, W150°以東	〃南	〃 南部	0°以南, 〃
濠西	濠洲西部	S10°以南, E100°-E130°	〃2	〃 2	N5°-N20°, 〃			

(魚種組成)

海区	キハダ	メバチ	ビンナガ	インド	ゴウシュウ	クロカワ	シロカワ	マカ	メカ	
アラ	45.5	15.8				24.9	2.3	10.9	0.6	
ベン	48.9	7.5				23.3	2.3	16.5	1.5	
中印イ.	84.0	9.6	0.9			1.3	0.8	2.9	0.5	
南印ロ.	17.0	6.9	68.3			5.8	1.0	0.7	0.3	
ハ	20.4	7.9	63.0	2.3		3.7	1.8	0.4	0.5	
濠西ニ.	45.5	5.6	5.1	39.6		1.6	1.8	0.3	0.4	
〃 ホ.	34.0	2.1	22.7	34.8		1.5	4.3	0.4	0.1	
〃 ヘ	62.9	0.9	24.9	0.2		2.6	7.7		1.0	
〃 ト	0.4	0.3	12.7	85.8		0.2	0.2	0.3	0.1	

(概況) 南印西部のビンナガは12月までS15°～25°, E50°～70°が主漁場であったが漸次北東へ移動し, 1月にはS10°～15°, E60°～80°の海域で, 又2月上旬には更にS5°～10°, E75°～85°の海域で漁獲される様になった。(右表参照)。　反面S20°以南及びE60°以西の海域では操業船が殆んど無くなったので不漁になったものと考えられる。　漁獲は12月に平均5尾台であったが全般的に漸減して2月上旬には平均3尾台になった。

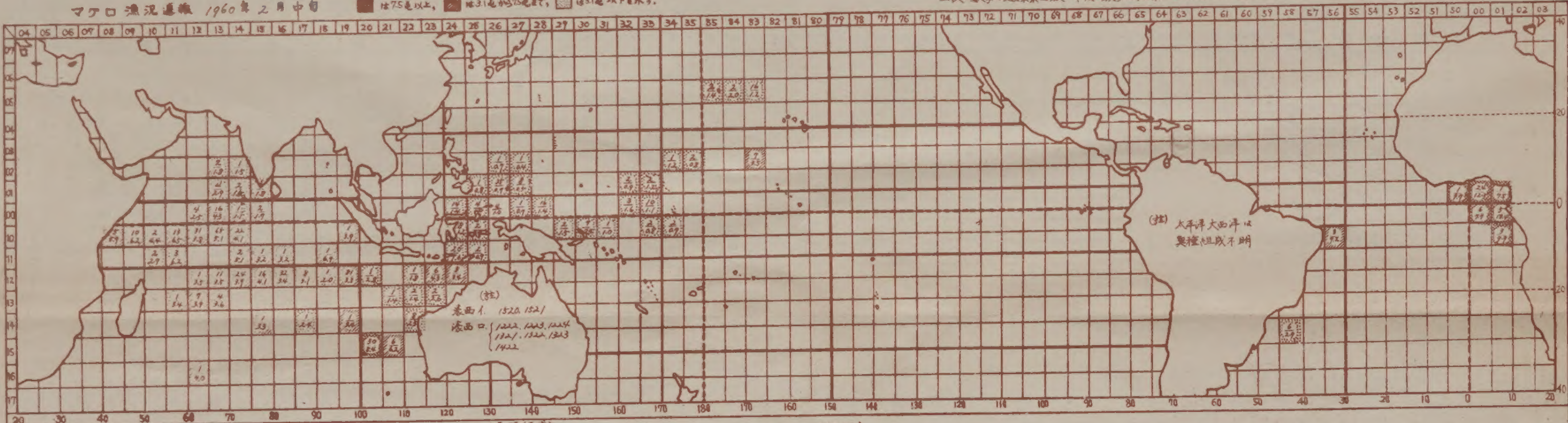
(註) 中印イ: 中印E70°以西 ～ 南印ロ: 南印E85°以西　ハ: 海区 1120, 1219, 1220

海区 魚種 月旬	1114 キハダ	1114 ビンナガ	1115 キ	1115 ビ	1116 キ	1116 ビ
	%	%	%	%	%	%
1 上	78.5	2.1				
1 中	71.7	6.7				
1 下	74.9	6.5	81.0	6.3		
2 上	67.3	19.9	16.4	61.5	19.2	52.0

(註) 海区は緯度経度の番号で示す。北緯及び東経ではその番号に5°をかけた数値が5°上位までの範囲。南緯, 西経は夫々10及50から始まるので, これらの数字から10及50を引いて5°をかけたものから5°上位までの範囲

2nd 10 day

マグロ漁況速報 1960年2月中旬　■ は7.5尾以上, ▨ は3.1尾から7.5尾まで, ☐ は3.1尾以下を示す。　上段の数字は延操業回数 下段の数字は操業一回当り平均漁獲尾数を示す。


(註)
濠西イ. 1520. 1521
濠西ロ. 1222, 1223, 1224, 1321, 1322, 1323, 1422
(註) 太平洋大西洋は魚種組成不明

(海区の分類)

符号	名称	範囲	符号	名称	範囲	符号	名称	範囲
アラ	アラビア海	N5°以北, E80°以西	南太4	南太平洋4	S10°-S30°, E130°-E170°	東太3	東太平洋3	N5°-S10°, W150°以東
ベン	ベンガル湾	N5°以北, E80°-E100°	〃5	〃 5	S30°以南, 〃	〃4	〃 4	S10°-S30°, 〃
中印	中印度洋	N5°-S10°, E100°以西	中太1	中太平洋1	N20°以北, E170°-W150°	〃5	〃 5	S30°以南, 〃
南印	南印度洋	S10°以南, E20°-E120°	〃2	〃 2	N5°-N20°, 〃	西大北	西大西洋北部	N5°以北, W30°以西
南支	南支那海	N5°以北, E120°以西	〃3	〃 3	N5°-S10°, 〃	〃中	〃 中部	N5°-S5°, 〃
西太1	西太平洋1	N20°以北, E120°-E170°	〃4	〃 4	S10°-S30°, 〃	〃南	〃 南部	S5°以南, 〃

(魚種組成)

海区	キハダ	メバチ	ビンナガ	インド	ゴウシュウ	クロカワ	シロカワ	マカ	メカ	
アラ	34.1	20.0				24.9	4.9	16.1		
中印	71.7	9.3	10.8	0.3		3.3	0.9	3.4	0.3	
南印	17.5	2.8	72.6	0.2		5.4	0.8	0.6	0.1	
濠西イ	1.1	0.4	10.5	87.2		0.1	0.4	0.2	0.1	
〃 ロ	44.1	9.9	9.9	22.8		4.8	7.6	0.7	0.2	

(概況)
中太2 0283の漁獲はメバチが例年通り好漁期にあるため高いが 0234, 0235はメバチが昨年暮から不漁状態を続けている為漁獲が低い。　濠西の1323, 1422はキハダが好漁期に当るので1321, 1322より漁獲が高く, 1224は　現在好漁期であるところのインドマグロが加わっているため1323, 1422よりも漁獲が高い。　1223はメバチとインドマグロの漁獲が上記海区より多いための漁獲が更に高くなっている。　アラビア海のクロカワは好漁期に当るが漁獲が昭和32年以降年々低下して来たためキハダの漁獲が比較的高い 0113のみが2.9尾程度でその東方及び北方の漁獲は全般的に低い。　中印のキハダは好漁期に当るが

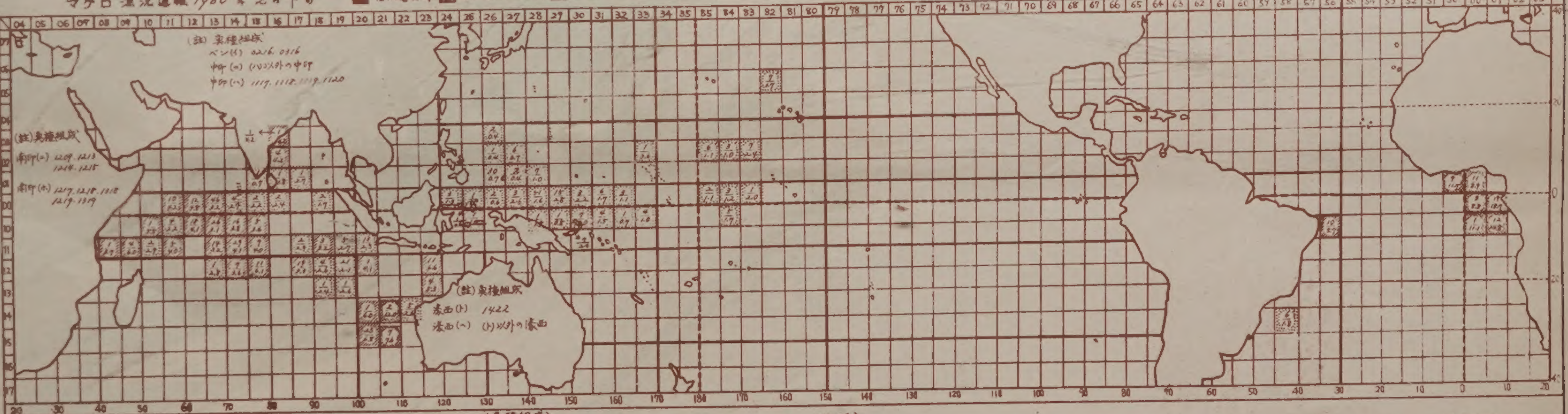
・3	西太平洋3	N5°-S10°, 〃	東太1	東太平洋1	N20°以北, W150°以東	・南	〃 南部	0°以南, 〃
濠西	濠州西部	S10°以南, E100°-E130°	・2	〃 2	N5°-N20°, 〃			

3rd 10 days

マグロ漁況通報 1960年 2月下旬

▇ は75尾以上、▨ は31尾から75尾まで、░ は31尾以下を示す。

上段の数字は延操業回数　下段の数字は操業一回当り平均漁獲尾数を示す


04
05
06
07
08
09
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
85
84
83
82
81
80
79
78
77
76
75
74
73
72
71
70
69
68
67
66
65
64
63
62
61
60
59
58
57
56
55
54
53
52
51
50
00
01
02
03
20
30
40
50
60
70
80
90
100
110
120
130
140
150
160
170
180
170
160
150
140
130
120
110
100
90
80
70
60
50
40
30
20
10
0
10
20
40
20
0
20
40

(註) 集積組成
ベン(イ) 0216. 0316
中印(ロ) (ハ)以外の中印
中印(ハ) 1117. 1118. 1119. 1120

(註) 集積組成
南印(ニ) 1209. 1213
1214. 1215
南印(ホ) 1217. 1218. 1318
1219. 1319

(註) 集積組成
濠西(ト) 1422
濠西(ヘ) (ト)以外の濠西

(漁区の名称)

符号	名称	範囲	符号	名称	範囲	符号	名称	範囲
アラ	アラビア海	N5°以北, E80°以西	西太4	西太平洋4	S10°-S30°, E120°-E170°	東太3	東太平洋3	N5°-S10°, W150°以東
ベン	ベンガル湾	N5°以北, E80°-E100°	・5	〃 5	S30°以南, 〃	・4	〃 4	S10°-S30°, 〃
中印	中印度洋	N5°-S10°, E100°以西	中太1	中太平洋1	N20°以北, E170°-W150°	・5	〃 5	S30°以南, 〃
南印	南印度洋	S10°以南, E20°-E100°	・2	〃 2	N5°-N20°, 〃	西大北	西大西洋北部	N5°以北, W30°以西
濠北	濠州北部	N5°-S10°, E100°以東	・3	〃 3	N5°-S10°, 〃	・中	〃 中部	N5°-S5°, 〃
西太1	西太平洋1	N20°以北, E120°-E170°	・4	〃 4	S10°-S30°, 〃	・南	〃 南部	S5°以南, 〃
・2	西太平洋2	N5°-N20°, 〃	・5	〃 5	S30°以南, 〃	東大北	東大西洋北部	0°以北, W30°以東
・3	西太平洋3	N5°-S10°, 〃	東太1	東太平洋1	N20°以北, W150°以東	・南	〃 南部	0°以南, 〃
濠西	濠州西部	S10°以南, E100°-E130°	・2	〃 2	N5°-N20°, 〃			

(集積組成)

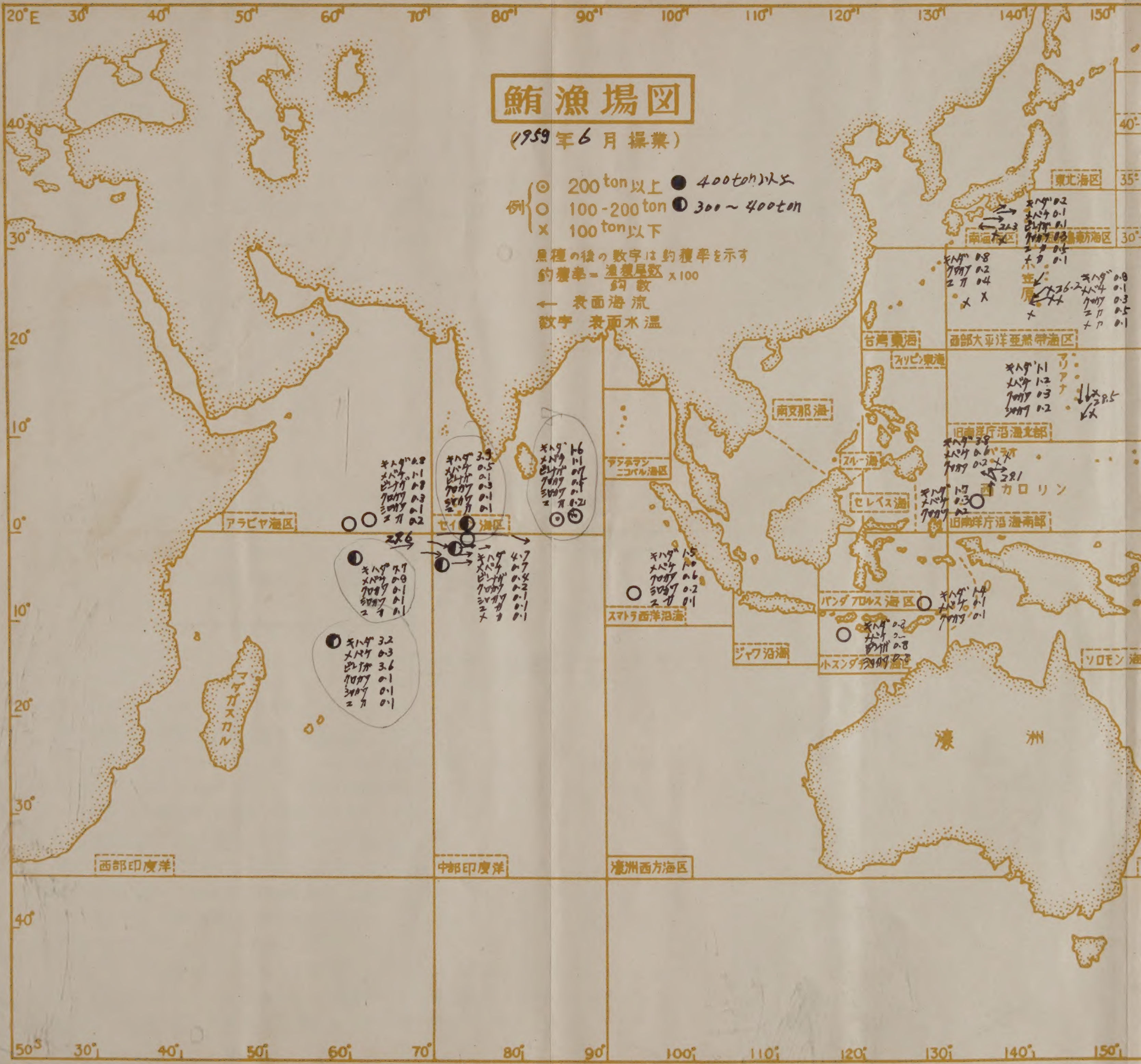
漁区	キハダ	メバチ	ビンナガ	インド	ゴウシュウ	クロカワ	シロカワ	マカ	[illegible]	雑
西太2	57.5	29.4	1.8			7.3	0.4	0.3	0.5	3.8
西太3	87.6	6.7	0.3			2.0	0.2		0.1	2.1
ベン(イ)	84.3	4.2				4.3	1.3	5.8	0.1	
中印(ロ)	76.3	13.6	2.8			3.2	0.9	2.9	0.3	
中印(ハ)	48.8	21.1	23.7	1.0		3.3	1.4	0.5	0.2	
南印(ニ)	50.0	12.5	32.7			3.6	0.4	0.6	0.2	
南印(ホ)	12.2	4.9	74.9	0.2		5.4	1.8	0.5	0.1	
濠西(ヘ)	2.4	1.2	9.9	83.9		1.2	1.0	0.4		
濠西(ト)	67.4	3.3	10.1	0.7		5.5	11.7	1.0	0.3	

(概況)

南印の操業船数は非常に少なくなり 特に11月～1月ビンナガ漁場だったS15°以南の海域は2月下旬に入って操業船皆無となった。ビンナガは南印(ホ) S10°～20° E85°～100° で一回平均50～60尾獲れている。　中印のキハダは操業海区がひろがったが操業一回当りの漁獲量は少なくなった。　濠西の1422は周囲の海域では漁獲物の殆んどがインドマグロであるのに対して この海区だけはキハダが大部分を占め インドマグロは極僅かであった。

大西洋ではアフリカ沿岸の海域でキハダの好漁が続いている。

(註) 漁場は区内の番号一緯度、経度の数字で示す。[illegible]



鮪漁場図

(1959年6月操業)

例
- ◎ 200 ton 以上　● 400ton以上
- ○ 100-200 ton　◐ 300～400ton
- × 100 ton 以下

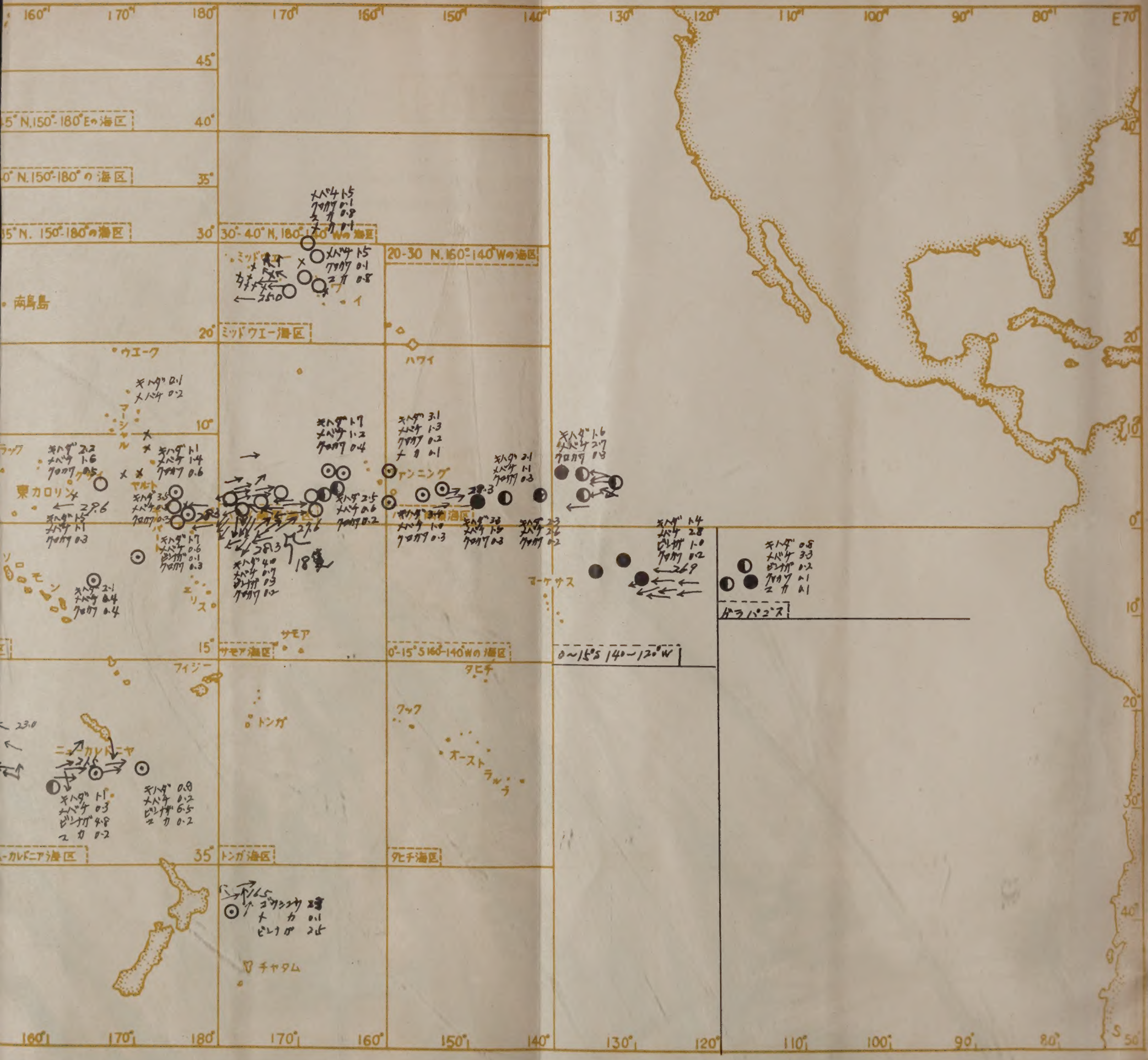
魚種の後の数字は釣獲率を示す

釣獲率＝漁獲尾数／釣数 ×100

← 表面海流

数字　表面水温

20°E
30°
40°
50°
60°
70°
80°
90°
100°
110°
120°
130°
140°
150°
40°
35°
30°
20°
10°
0°
10°
20°
30°
40°
50°S
東北海区
南海区
南方諸島東方海区
台湾東海
フィリピン東海
西部太平洋亜熱帯海区
小笠原
マリアナ
南支那海
旧南洋庁沿海北部
パラオ
西カロリン
旧南洋庁沿海南部
スルー海
セレベス海
アンダマン・ニコバル海区
アラビヤ海区
セイロン海区
スマトラ西洋沿海
ジャワ沿海
バンダ フロルス 海区
小スンダ列島沿海
ソロモン海
マダガスカル
濠洲
西部印度洋
中部印度洋
濠洲西方海区
キハダ 0.8
メバチ 1.1
ビンナガ 0.8
クロカワ 0.3
シロカワ 0.1
メカジキ 0.2
キハダ 3.9
メバチ 0.5
ビンナガ 0.1
クロカワ 0.3
シロカワ 0.1
マカジキ 0.1
キハダ 1.6
メバチ 1.1
ビンナガ 0.7
クロカワ 0.5
シロカワ 0.1
マカジキ 0.21
28.6
キハダ 3.7
メバチ 0.8
クロカワ 0.1
シロカワ 0.1
マカジキ 0.1
キハダ 4.7
メバチ 0.7
ビンナガ 0.4
クロカワ 0.2
シロカワ 0.1
マカジキ 0.1
メカジキ 0.1
キハダ 3.2
メバチ 0.3
ビンナガ 3.6
クロカワ 0.1
シロカワ 0.1
マカジキ 0.1
キハダ 1.5
メバチ 1.0
クロカワ 0.6
シロカワ 0.2
メカジキ 0.1
キハダ 0.2
メバチ 0.1
ビンナガ 0.1
クロカワ 0.3
マカジキ 0.5
メカジキ 0.1
22.3
キハダ 0.8
クロカワ 0.2
マカジキ 0.4
26.2
キハダ 0.8
メバチ 0.1
クロカワ 0.3
マカジキ 0.5
メカジキ 0.1
キハダ 1.1
メバチ 1.2
クロカワ 0.3
シロカワ 0.2
28.5
キハダ 3.8
メバチ 0.6
クロカワ 0.2
28.1
キハダ 1.7
メバチ 0.3
クロカワ 0.2
キハダ 1.4
メバチ 0.1
クロカワ 0.1
キハダ 0.2
メバチ 0.1
ビンナガ 0.8
シロカワ 0.8


160°
170°
180°
170°
160°
150°
140°
130°
120°
110°
100°
90°
80°
E70
45°
40°
35°
30°
20°
10°
0°
15°
35°
5°N.150°-180°Eの海区
0°N.150°-180°の海区
35°N. 150°-180°の海区
30°-40°N, 180°-140°Wの海区
20-30 N.160°-140°Wの海区
ミッドウエー海区
ミッドウエー
ハワイ
南鳥島
ウエーク
マーシャル
東カロリン
ヤルート
ソロモン
エリス
サモア
サモア海区
フィジー
0°-15°S 160°-140°Wの海区
0~15°S 140~120°W
ガラパゴス
マーケサス
ファンニング
タヒチ
クック
オーストラル
トンガ
トンガ海区
ニューカレドニヤ
ニューカレドニア海区
チャタム
タヒチ海区
メバチ 1.5
クロカワ 0.1
ヨコワ 0.8
メカ 0.1
メバチ 1.5
クロカワ 0.1
ヨコワ 0.8
25.0
キハダ 0.1
メバチ 0.2
キハダ 2.2
メバチ 1.6
クロカワ 0.5
キハダ 1.1
メバチ 1.4
クロカワ 0.6
29.6
キハダ 1.5
メバチ 1.1
クロカワ 0.3
キハダ 3.5
メバチ 0.3
クロカワ 0.3
28.3
キハダ 1.7
メバチ 0.6
ビンナガ 0.1
クロカワ 0.3
キハダ 2.1
メバチ 0.4
クロカワ 0.4
28.3
キハダ 4.0
メバチ 0.7
ビンナガ 0.3
クロカワ 0.2
18隻
27.6
キハダ 1.7
メバチ 1.2
クロカワ 0.4
キハダ 2.5
メバチ 0.6
クロカワ 0.2
キハダ 3.1
メバチ 1.3
クロカワ 0.2
メカ 0.1
キハダ 3.4
メバチ 1.0
クロカワ 0.3
28.3
キハダ 2.1
メバチ 1.1
クロカワ 0.3
キハダ 3.0
メバチ 1.5
クロカワ 0.3
キハダ 2.3
メバチ 2.6
クロカワ 0.2
キハダ 1.6
メバチ 2.7
クロカワ 1.3
キハダ 1.4
メバチ 2.8
ビンナガ 1.0
クロカワ 0.2
26.9
キハダ 0.5
メバチ 3.3
ビンナガ 0.5
クロカワ 0.1
マカ 0.1
23.0
24.6
キハダ 1.1
メバチ 0.3
ビンナガ 4.8
マカ 0.2
キハダ 0.9
メバチ 0.2
ビンナガ 6.5
マカ 0.2
16.5
ゴウシュウ 2.3
メカ 0.1
ビンナガ 2.5
S
50°

1959年6月に於ける**マグロ**漁場の漁況と海況の概要

（南水研、神水試委託調査船 105 隻の資料による）

Fishing and Sea Condition of Tuna Fishing Ground in June 1959

(By the data collected from the 105 appointed boats)

1. 操業船の分布

ミッドウエー東南東の操業船は5月と変わらず、サモア海区北西端に操業していた漁船は6月に北上してハワイ南西海区 5°N以南の西方に密集している外は、操業船が全般的に減少し、特に、カロリン、ソロモン両諸島周辺と印度洋 0—5°N の水帯は顕著である。

2. 海況

漁場圖参照（別紙）

3. 漁況

A. 東部太平洋第3漁場（5°N—10°S, 150°W以東）

0—20°N, 140—120°W の海区の西方の釣獲率（鈎100本当りの漁獲尾数）は、5月3.8, 6月1.8と低下し、メバチが5月1.5, 6月2.7と上昇した。また、150—130°W の海域のキハダとメバチの釣獲率は程度により異なり、キハダは東方程低く、メバチは 143°W付近を境に西側が 1.1—1.5 で低く、東側が 2.6—2.7 で高い。（漁場圖参照）。

マーケサス北東の 5°S, 130°W付近、及びガラパゴス海区西端の 5°S付近の釣獲率はキハダが不漁期で 0.8—1.4, メバチは北半球の夏季における好漁期に当り、冬季程ではないが比較的高く、130°W付近で 2.8, 120—115°W付近で 3.3, また、130°W付近では 5—8°S付近でビンナガが 2.0 を示し、この緯度としては多獲された。

B. 中部太平洋第1漁場（20°N以北、180—150°W）

5月と同様殆んどの漁船はミシドウエー東南東に密集し、6隻がハワイ列島北部の周辺及び北方に散在しているが、メバチは全般的に不漁期で釣獲率が低く 1.5, それに対しマカジキが全般的に好漁期で漁獲が高く 0.8 を示している。

C. 中部太平洋第2漁場（5—20°N,170°E—150°W）

フアンニング諸島西方の 6°N線は 5°N以南の漁獲と異なるが、キハダは 5°N以南の影響を受け、メバチは今年（昭和34年）漁獲が低いのでむしろキハダの方が漁獲が高い。フアンニング諸島東方の 6°N線は同海域の 5°N以南と全く同様で、釣獲率はキハダ 3.1, メバチ 1.3, クロカワ 0.2 となつている。

マーシヤル諸島東側は、キハダの漁獲が夏季の好漁期に向け上昇中で、メバチは好漁期末期に当るが今年（昭和34年）は漁獲が低く、両魚種ほゞ同程度の漁獲である。同海域のクロカワは、好漁期で漁獲が高く釣獲率 0.6 となつている。

D.　中部太平洋第3漁場（5°N—10°S,170°E—150°W）

ハワイ南西海区5°N以南のキハダの漁獲は春と秋の好漁期の谷間となり、比較的低く釣獲率2.5，ギルバート北側、サモア海区北西端、及びフアンニング東方の各海域は好漁期で、釣獲率は3.4—4.0を示し極めて高い。

メバチは0.6—1.0で全海域ほゞ同程度である。ギルバート西南方のキハダの釣獲率は1.7で極めて低いが、これは西部太平洋第3漁場の影響下にあるためと思われる。

E.　中部太平洋第4漁場（10—30°S，170°E—150°W）

西部太平洋第4漁場の項で一括説明する。

F.　中部太平洋第5漁場（30°S以南、170°E—150°W）

ニユージランド東岬東方のゴウシユウマグロは、好漁期で釣獲率8.3となつている。

G.　西部太平洋第1漁場（20°N以北、170°E以西）

沖大東島東方及び小笠原諸島東方は、キハダが好漁期に入り釣獲率は0.8—0.9を示し、伊豆諸島西方から同海域にかけて最盛期（釣獲率0.4—0.5）にあるマカジキと共に多獲されている。

H.　西部太平洋第2漁場（5—20°N，170°E以西）

マリアナ諸島東方海域はキハダが好漁期に当り釣獲率1.1，クロカワが若干高く0.3メバチは不漁期で0.2，パラオ諸島周辺とクサイ島北東海域も、キハダが好漁期、メバチが不漁期であるため、メバチよりキハダの方が多獲されている。しかし、パラオ諸島周辺の漁獲3.4は特異な現象であり、また、クサイ島北東海域はヤルート島北方海域と同様メバチが若干漁獲され釣獲率1.6を示している。また、クロカワも好漁期に入り、クサイ島北東海域は釣獲率0.5となつている。

I.　西部太平洋第3漁場（5°N—10°S,170°E以西）

西カロリン南方海域とクサイ島南東海域のキハダの漁獲は5月より著しく低下して4月と同率、例年より稍早く不漁期に入つた。昭和33年秋から34年春にかけての漁期は、概して全般的に不漁であつた。クサイ島南東海域のメバチは好漁期に入り、5月と同様釣獲率1.1で比較的高い。

J.　西部太平洋第4漁場（10—30°S,170°E以西）

ソロモン群島北東海域は、キハダが不漁期で釣獲率2.0，クロカワは春（北半球における）の好漁期に当るが、例年よりやゝ遅くまで高率である。

ニユーカレドニア南方海域は、170°E以西と以東とでキハダとビンナガの漁獲が多少異なるが、大きな差はみられない。ビンナガ漁獲の大半を占め、釣獲率は170°E以西が4.8，以東が6.5でこの水帯が好漁期に入つたことを示している。

K.　東部印度洋漁場　（90°E以東）

チモール島北方海域で1隻が操業しているが、キハダ、メバチ共に不漁期で、キハダの釣獲率が1.4を示している程度である。

スンバ島西南海域も、キハダが不漁期に入り、ビンナガは未だ上昇し始めたばかりであるため、全魚種共漁獲が低い。

スマトラのバタン西南方海域も、キハダ、メバチ、共に低下途上で不漁期に入り、釣獲率はキハダ1.5, メバチ1.0で共に低い。

L. 北、中、南部印度洋漁場（90°E以西）

セイロン東南方の海域のキハダは、昭和30年以降漁獲が低下ており、また好漁期末期でもあるので釣獲率は低く1.6, メバチも好漁期末期で釣獲率1.1,ビンナガとクロカワは好漁期に入り、釣獲率はビンナガが0.7,クロカワが0.5を示ている。

マルデイヴ諸島南部周辺とその西方60°E周辺のキハダは、春（北半球における）の好漁期で共に漁獲が高く、釣獲率はマルデイヴ諸島南部周辺が3.9,その西方が4.8,また、マルデイヴ諸島南方の3°S周辺とその西方の60°E線は共に好漁期末期であるが漁獲は昨年（昭和33年）よりかなり高く、釣獲率は東側が4.7,西側が7.7を示している

12°S, 60°E周辺は、好漁期である10°Sの影響を受けキハダが釣獲率3.2, 北上中のビンナガが釣獲率3.6で、共に比較的高い率で混獲されている。

『SUNISO』御採用の鮪船

神奈川水試相模丸他大洋、日魯、五洋、清寿、徳島水産各会社所属船約50数隻

スニソ オイル
SUNISO OILの
御用命は

米国サンオイル社特約販賣店
日本興産株式会社
本社 東京都千代田区神田紺屋町37（丸喜ビル）
電話 (251) 5471. (291) 9028
出張所 大阪市西区立売堀北通1（立売堀ビル）
日本通商内. 電話 (53) 0303. 0437

June

月別、漁場別、鮪類漁獲調査表

漁　場	操業区域	調査隻数	体長測定船数	水温 (C°)	流向 流速	操業回数	漁具数	鈎　数	きはだ	めばち
0—20N 140—120W	3—8N 147—128W	4	1	26.9 28.3		40	16240	76160	1183 1.55	2034 2.67
0—15S 140—120W	5—8S 135—124W	3	2	25.0 27.1		42	35446	171004	1047 1.40	2286 2.78
ガラパゴス	3—8S 125—113W	3	0	25.1 26.8		30	12410	59400	498 0.84	1982 3.33
30—40 N 180—140W	27—31N 170—165W	1	0	22.9 25.4		30	10500	42000	6 0.01	629 1.50
ミッドウエー	25—30N 180—159W	19	0	20.9 25.7		375	152470	1002345	606 0.06	6828 0.68
ハワイ南西 (5°N 以北)	4—7N 172—159W	2	0	28.2 29.0		30	11710	53538	913 1.65	656 1.19
ハワイ南西 (5°N 以南)	0—5N 180—163W	17	8	27.2 29.2		265	101178	536217	13450 2.51	3228 0.60
ハワイ南東 (5°N 以北)	3—8N 164—157W	1	1	28.5 28.9		18	7380	36900	913 1.65	656 1.19
ハワイ南東 (5°N 以南)	0—7N 158—142W	6	3	27.3 28.6		148	62487	232830	6706 2.88	2487 1.07
サモア	0—4N 180—173W	4	3	27.9 29.8		43	23651	120610	4846 4.02	888 0.74
チヤタム	35—39S 180—177W	1	1	14.8 17.1		16	5795	23179		6 0.03
南海々区	32—33N 137—141E	2	0	20.5 23.0		25	3440	16000	32 0.20	8 0.05
西部太平洋 (170°E以西)	22—28N 139—145E	8	0	22.9 29.9		98	21409	94811	840 0.89	77 0.08
南洋北部 (170°E以西)	11—15N 148—150E	2	1	27.5 29.6		32	10624	46120	494 1.07	87 0.19
南洋北部 (170°E以東)	9—10N 173—170[illegible]	1	1	27.9 28.1		14	5026	201043	218 0.11	380 0.19
南洋南部 (170°E以西)	1—8N 136—171E	7	1	28.4 29.9		101	33294	147666	4230 2.86	1199 0.81
南洋南部 (170°E以東)	0—11N 162—180E	7	3	28.1 29.6		108	35733	156642	5324 3.40	1393 0.89
ソロモン	0—10S 159—180E	2	1	27.9 29.6		44	4134	50670	1644 1.94	390 0.46
ニユーカレドニア	22—29S 155—172E	3	1	20.0 22.9		48	18788	111060	1131 1.01	3480 3.11
バンダフロレス	4—6S 127—129E	1	0	28.6 29.2		10	12290	49160	696 1.42	60 0.12
小スンダチモール	11—13S 116—118E	1	0	27.9 28.5		6	2270	6810	57 0.84	16 0.23
スマトラ西岸	2—4N 92—95E	1	0	29.4 29.9		14	5180	20720	300 1.45	199 0.96

（1959年6月 操 業 分）

（別 表 1）

ぐ	ろ		か	じ	き			かつお	雑	さめ	計	記事
びんなが	くろ鮪	いんど鮪	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしよう					
50 0.07			226 0.30	22 0.03	12 0.02	12 0.02	1 0.00	13 0.02	4 0.01	40 0.05	3597 4.72	
724 1.00			163 0.22	20 0.03	57 0.08	5 0.01		478 0.64	164 0.22	133 0.18	5077 6.78	
93 0.16			76 0.13	22 0.04	61 0.10	4 0.01	1 0.00	9 0.02	8 0.01	38 0.06	2792 4.72	
2 0.00			51 0.12		318 0.76	24 0.06			17 0.04		1047 2.49	
183 0.02			612 0.06	5 0.00	3375 0.34	301 0.03	28 0.00		637 0.06	49 0.00	12624 1.26	
			200 0.36	4 0.01	2 0.00	5 0.01	44 0.08				1824 3.30	
152 0.03			879 0.16	48 0.01	16 0.00	50 0.01	47 0.01	127 0.02	240 0.04	266 0.05	18503 3.45	
			200 0.36	4 0.01	2 0.00	5 0.01	44 0.08				1824 3.30	
91 0.04			532 0.23	48 0.02	24 0.01	38 0.02	9 0.00	41 0.02	383 0.16	541 0.23	11900 4.68	
312 0.26			248 0.21	10 0.01	1 0.00	36 0.03	25 0.02	4 0.00	43 0.04	4 0.00	6417 5.32	
587 2.53		1927 8.31			8 0.03	12 0.05					2540 10.96	
13 0.08			1 0.01		87 0.54	8 0.05			12 0.08	63 0.39	276 1.73	
4 0.00	26 0.03		204 0.22		421 0.44	65 0.07	223 0.24	192 0.20	228 0.24	316 0.33	2596 2.84	
9 0.02			142 0.31	100 0.22	13 0.03	4 0.01	64 0.14	45 0.11	226 0.49	88 0.19	1272 2.76	
			75 0.04		1 0.00	3 0.00			162 0.08		839 0.42	
25 0.02	1 0.00		400 0.27	36 0.02	14 0.01	8 0.01	117 0.08		235 0.16	287 0.19	6552 4.44	
112 0.07			504 0.32	4 0.00	4 0.00	20 0.01	2 0.00		379 0.24	268 0.17	8010 5.11	
50 0.06			279 0.33	22 0.03	10 0.01	7 0.01	151 0.18	22 0.03		250 0.29	2825 3.33	
2426 2.17			26 0.02	7 0.01	227 0.20	74 0.07			308 0.28	47 0.04	7726 6.93	
			36 0.07	5 0.01	1 0.00		32 0.07	18 0.04	23 0.05	111 0.23	982 2.11	
396 5.81			6 0.09	12 0.18	1 0.01	2 0.02					490 7.20	
2 0.01			122 0.59	39 0.19	20 0.10	7 0.03	25 0.12				714 3.45	

セイロン	1— 5N 70— 92E	3	0	28.6 29.8		34	13487	68528	1730 2.52	563 0.82
中部印度洋	0— 6S 68— 74E	3	1	27.0 29.4		69	27205	128761	6022 4.68	836 0.65
アラビア	0— 3N 59— 66E	2	0	29.0 29.5		18	7220	26880	1294 4.81	282 1.05
西部印度洋	3— 14S 56— 66E	2	0	24.6 28.6		28	11760	47040	2626 5.58	280 0.60

180—

『かなやま』の『さつま』に代る新漁具

鮪延縄用SKスリーブ及びプレッサー

本品は手軽に締めつけが出来て誰でも出来不出来がありません。その上製作に時間と労力を要せず強度も一定で革命的のものであります。東京水産大学練習船海鷹丸では夙に使用されていて実用上その耐久力強度については充分に立証されております。

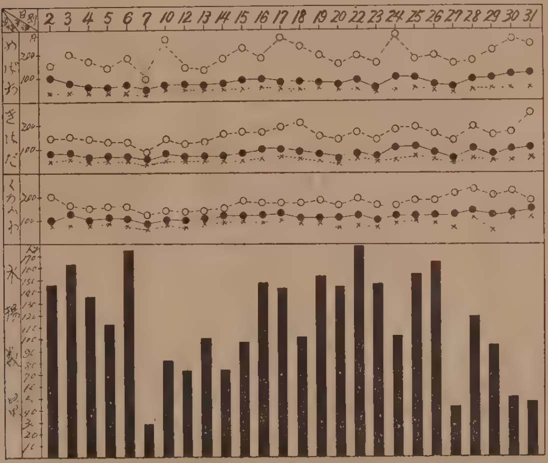
須田製作所

営業所　東京都中央区銀座東6—4日交ビル　電話(541)3904—7
工　場　月島第一　月島第二　板　橋

308			291	49	127	34	55		8		3165	
0.45			0.42	0.07	0.19	0.05	0.08		0.01		4.62	
521			204	66	143	68	73		2	136	8071	
0.40			0.16	0.05	0.11	0.05	0.06		0.00	0.11	6.27	
204			66	13	62	10	78				2009	
0.76			0.25	0.05	0.23	0.04	0.29				7.47	
799			38	34	48	14	28				3867	
1.70			0.08	0.07	0.10	0.03	0.06				8.22	

鮪類水揚価格表（三崎）

昭和三十五年三月



月別、漁場別、鮪類体長組成表（1959年6月操業分）

（別 表 2 ）

魚種	測定船数	漁　　場	操業位置	操業回数	50 cm 以下	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171 cm 以上	計	漁獲尾数
きはだ	1	0— 20N 140—120W	-4— 6N 140—139W	4						13 8.6	15 9.9	60 39.7	40 26.5	16 10.6	7 4.6				151 100	145
	2	0— 15S 140—120W	5— 8S 135—124W	27						5 6.8		16 21.6	23 31.1	19 25.7	8 10.8	2 2.7		1 1.4	74 100	790
	8	ハワイ南西 （5°N以南）	0— 8N 180—163W	142					8 0.4	146 7.4	325 16.4	665 33.5	440 22.2	280 14.1	95 4.8	22 1.1	1 0.1	2 0.1	1984 100	7473
	1	ハワイ南東 （5°N以北）	3— 8N 164—157W	18				1 0.4	40 14.9	45 16.7	90 33.5	65 24.2	18 6.7	9 3.3	1 0.4				269 100	1157
	3	ハワイ南東 （5°N以南）	1— 7N 172—140W	70					3 0.4	26 3.9	90 13.4	348 51.9	123 18.3	53 7.9	28 4.2				671 100	4321
	2	サ　モ　ア	0— 3S 180—173W	20						26 4.3	104 17.2	224 37.1	125 20.7	103 17.1	21 3.5	1 0.2			604 100	3155
	1	チ ャ タ ム	35— 39S 180—177W	16									2 40.0	1 20.0	2 40.0				5 100	0
	1	南洋北部 （170°E以西）	14— 15N 149—150E	20				1 4.8		3 14.3	9 42.9	5 23.8	1 4.8	2 9.5					21 100	152
	1	南洋南部 （170°E以西）	3— 9N 160—168E	19						1 2.0	5 10.0	12 24.0	19 38.0	11 22.0	2 4.0				50 100	567
	3	南洋南部 （170°E以東）	0— 10N 162E—180	71				1 0.1	8 1.0	105 13.5	193 24.3	195 25.0	142 18.2	99 12.7	34 4.4	2 0.3			779 100	3589
	1	ソ ロ モ ン	2— 10S 159—171E	29					1 1.0	12 11.4	36 34.3	31 29.5	17 16.2	8 7.6					105 100	1132
	1	ニ ュ ー カレドニア	22— 29S 162—172E	11						1 1.6	1 1.6	10 16.4	25 41.0	24 39.3					61 100	325
	1	中部印度洋	0— 6S 63— 71E	18						18 3.7	31 6.4	47 9.7	249 51.6	117 24.2	18 3.7	3 0.6			483 100	1226

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	60 cm 以下	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181 cm 以上	計	漁獲尾数
めばち	1	0— 20N 140—120W	4— 6N 140—139W	4						11 17.7	3 4.8	11 17.7	13 21.0	12 19.4	7 11.3	1 1.6	3 4.8	1 1.6	62 100	329
	2	0— 15S 140—120W	4— 8S 135—124W	27			1 0.4	9 3.0	7 2.6	10 3.8	15 5.7	21 9.9	24 9.1	45 17.0	47 17.7	42 15.8	26 9.8	19 7.2	~~265~~ 100	1652
	8	ハワイ南西 （5°N 以南）	0— 8N 180—161W	153	2 0.3			5 0.6	43 6.1	112 15.8	113 15.9	176 24.8	125 17.6	62 8.7	41 5.8	17 2.4	10 1.4	3 0.5	709 100	1520
	1	ハワイ南東 （5°N 以北）	3— 8N 164—157W	18				5 3.7	28 20.7	28 20.7	33 24.4	25 18.5	6 4.4	5 3.7	2 1.5	1 0.7		2 1.5	135 100	460
	3	ハワイ南東 （5°N 以南）	1— 7N 172—140W	70			1 0.3	5 1.4	24 6.6	31 8.6	28 7.7	59 16.3	47 13.0	64 17.7	50 13.8	35 9.7	17 4.7	1 0.3	362 100	1465
	2	サ モ ア	0— 3S 180—173W	20				3 2.0	14 9.3	26 17.3	22 14.7	36 24.0	25 16.7	16 10.7	4 2.7	2 1.3	1 0.7	1 0.7	150 100	613
	1	チ ヤ タ ム	35— 39S 180—177W	16										1 20.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0		5 100	6
	1	南 洋 北 部 （170°E以西）	14— 15N 149—150E	20				2 18.2	1 9.1	3 27.3	3 27.3	1 9.1	1 9.1						11 100	3
	1	南 洋 南 部 （170°E以西）	3— 9N 160—168E	19					6 7.1	19 22.4	24 28.2	20 23.5	11 12.9	2 2.4	3 3.5				85 100	428
	3	南 洋 南 部 （170°E以東）	0— 10N 162—177E	71				8 3.0	22 8.2	39 14.6	55 20.6	56 21.0	52 19.5	27 10.1	7 2.6	1 0.4			267 100	820
	1	ソ ロ モ ン	2— 10S 159—171E	29				2 3.7	12 22.2	15 27.8	10 18.5	8 14.8	4 7.4	2 3.7	1 1.9				54 100	209
	1	ニ ュ ー カレドニア	22— 29S 162—172E	11				1 50.0				1 50.0							2 100	53
	1	中部印度洋	0— 6S 63 — 71E	18				1 1.6		10 15.9	4 6.3	8 12.7	10 15.9	15 23.8	11 17.5	3 4.8	1 1.6		63 100	224

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	120 cm 以下	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241 cm 以上	計	漁獲尾数
いんど鮪	1	チ ヤ タ ム	35— 39S 180—177W	16	24 6.2	55 14.2	78 20.2	140 36.3	63 16.3	21 5.4	9 0.8	2 0.5							386 100	1927

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	130 cm 以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251 cm 以上	計	漁獲尾数
	1	0— 20N 140—120W	4— 6N 140—139W	4			3 15.0	1 5.0	8 40.0		5 25.0	1 5.0		1 5.0	1 5.0				20 100	29
	2	0— 15S 140—120W	4— 8S 135—124W	27	1 1.8		3 5.4	4 7.1	9 16.1	2 3.6	6 10.7	8 14.3	5 8.9	5 8.9	7 12.5	2 3.6	2 3.6	2 3.6	56 100	104
く	7	ハワイ南西 (5°N 以南)	0— 8N 180—163W	141	16 5.4	33 11.1	29 9.8	42 14.2	56 18.9	26 8.8	25 8.4	23 7.8	17 5.7	14 4.7	6 2.0	3 1.0	3 1.0	3 1.0	296 100	420
	1	ハワイ南東 (5°N 以北)	3— 8N 164—157W	18	6 20.0	6 20.0	9 30.0	4 13.3		2 6.7	1 3.3			2 6.7					30 100	78
ろ	3	ハワイ南東 (5°N 以南)	1— 7N 172—140W	70	10 7.9	7 5.5	9 7.1	11 8.7	21 16.5	17 13.4	15 11.8	12 9.4	9 7.1	10 7.9	2 1.6	2 1.6		2 1.6	127 100	374
	2	サモア	0— 3S 180—173W	20	4 7.1	9 16.1	4 7.1	11 19.6	16 28.6	3 5.4	2 3.6	3 5.4	1 1.8	1 1.8	1 1.8			1 1.8	56 100	139
か	1	南洋北部 (170°E以西)	14— 15N 149—150E	20	1 3.4	5 17.2	4 13.8	8 27.6	8 27.6				1 3.4		2 6.9				29 100	102
	1	南洋南部 (170°E以西)	3— 9N 160—168E	19	3 8.1	5 13.5	6 16.2	6 16.2	9 24.3	3 8.1	1 2.7	1 2.7		2 5.4			1 2.7		37 100	132
	3	南洋南部 (170°E以東)	0— 10N 162E—180	71	14 14.0	9 9.0	9 9.0	7 1.0	9 9.0	4 4.0	6 6.0	8 8.0	11 11.0	6 6.0	9 9.0	5 5.0	1 1.0	2 2.0	100 100	301
わ	1	ソロモン	2— 10S 159—171E	29	17 29.8	13 22.8	6 10.5	5 8.8	7 12.3	2 3.5	2 3.5	1 1.8	2 3.5		2 3.5				57 100	192
	1	ニューカレドニア	22— 29S 162—172E	11				1 20.0		3 60.0	1 20.0								5 100	3
	1	中部印度洋	1— 6S 63— 71E	18			3 7.9	8 21.1	13 34.2	5 13.2	3 7.9	1 2.6	2 5.3	1 2.6		1 2.6	1 2.6		38 100	34

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	130 cm 以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251 cm 以上	計	漁獲尾数
	2	0— 15S 140—120W	4— 8S 135—124W	27							1 10.0		2 20.0		2 20.0	3 30.0	2 20.0		10 100	12
し	6	ハワイ南西 (5°N 以南)	0— 8N 180—163W	133			1 4.2	6 25.0	2 8.3	3 12.5	1 4.2	2 8.3	1 4.2	1 4.2	1 4.2	3 12.5	1 4.2	2 8.3	24 100	18
	1	ハワイ南東 (5°N 以北)	3— 8N 164—157W	18		1 11.1	2 22.2		1 11.1	2 22.2	1 11.1						1 11.1	1 11.1	9 100	4

ろ	2	ハワイ南東（5°N 以南）	2—6N 156—140W	44				3 14.3		3 14.3		1 4.8	3 14.3	2 9.5	1 4.8		2 9.5	6 28.6	21 100	21
	1	南洋南部（170°E以西）	3—9N 160—168E	19		1 12.5	2 25.0	1 12.5	1 12.5	2 25.0		1 12.5							8 100	3
か	1	南洋南部（170°E以東）	0—10N 162E—180	71	1 8.3		1 8.3	1 8.3	2 16.7	3 25.0	1 8.3		1 8.3		1 8.3			1 8.3	12 100	4
	1	ソロモン	2—10S 159—171E	29	2 33.3	2 33.3			1 16.7		1 16.7								6 100	18
わ	1	ニューカレドニア	22—29S 162—172E	11							1 100								1 100	64
	1	中部印度洋	0—6S 63—71E	18	1 9.1		1 9.1		1 9.1		1 9.1	2 18.2	2 18.2	1 9.1	1 9.1		1 9.1		11 100	11

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	100 cm 以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221 cm 以上	計	漁獲尾数
	2	0—15S 140—120W	4—8S 135—124W	27						2 6.5	10 32.3	11 35.5	7 22.6	1 3.2					31 100	23
ま	4	ハワイ南西（5°N 以南）	0—8N 180—163W	103						3 27.3	3 27.3	4 36.4	1 9.1						11 100	11
か	1	ハワイ南東（5°N 以北）	3—8N 164—157W	18			1 50.0							1 50.0					2 100	2
じ	2	ハワイ南東（5°N 以南）	2—4N 157—150W	44					3 20.0	4 26.7	2 13.3	3 20.0	3 20.0						15 100	16
き	1	ニューカレドニア	22—29S 162—172E	11					1 4.5	4 18.2	8 36.4	4 18.2	3 13.6	2 9.1					22 100	64
	1	中部印度洋	0—6S 63—71E	18	2 2.2	3 3.2	14 15.1	10 10.8	16 17.2	15 16.1	15 16.1	14 15.1	3 3.2	1 1.1					93 100	33

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	80 cm 以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201 cm 以上	計	漁獲尾数
	6	ハワイ南西（5°N 以南）	0—8N 180—163W	133						1 3.0		3 9.1	4 12.1	6 18.2	7 21.7	8 24.2	1 3.0	3 9.1	33 100	25
め	1	ハワイ南東（5°N 以北）	3—8N 164—157W	18						1 9.1		1 9.1	1 9.1	1 9.1	2 18.2	1 9.1	1 9.1	3 27.3	11 100	17
	2	ハワイ南東（5°N 以南）	0—6N 156—140W	44								3 12.0	2 8.0	4 16.0	7 28.0	6 24.0	1 4.0	2 8.0	25 100	16

かじき	1	サモア	0— 1S 180—173W	20								1 6.7	1 6.7	1 6.7	5 33.3	4 26.7	1 6.7	2 13.3		15 100	15
	1	チヤタム	35— 39S 180—177W	16									1 25.0	1 25.0		1 25.0		1 25.0		4 100	12
	1	南洋南部 (170°E以西)	3— 9N 160—168E	19							1 50.0		1 50.0							2 100	2
	3	南洋南部 (170°E以東)	0— 10N 162—177E	71						1 8.3		2 16.7		3 25.0	3 25.0	2 16.7		1 8.3		12 100	17
	1	ソロモン	2— 10S 159—171E	29							1 50.0							1 50.0		2 100	2
	1	中部印度洋	0— 6S 63— 71E	18						1 2.4	9 22.0	3 7.3	6 14.6	1 2.4	8 19.5	5 12.2	2 4.9	6 14.6		41 100	10

マグロ漁況概況豫報　（1960年6月）

神奈川県水試　漁業指導科

東部太平洋第2漁場（5−20°N, 150°W以東）

5—10°S, 150−110°Wの海域は、キハダの漁獲が1.4屯程度で低いため、メバチが主漁獲物となりますが、メバチの漁獲は5—7°Sの水帯が2.0屯、7—10°Sの水帯が6.0屯で、北よりの海域と南よりの海域とで異なります。

東部太平洋第3漁場（5°N—10°S, 150°W以東）

この漁場も漁獲が緯度により異なり、0—5°N, 150—110°Wの海域はキハダが好漁期で、漁獲は北よりで2.8屯、南よりで2.3屯、メバチも好漁期で漁獲は3.6屯、また0—10°S, 150—110°Wの海域はキハダが不漁期で0.4屯、メバチが3—7°Sの水帯のみ好漁期で5.6屯、その南、北の水帯は不漁期で1.6屯程度の漁獲です。

東部太平洋第4漁場（10—30°S, 150°W以東）

マーケサス諸島南西海域は、殊によると、ビンナガが好漁期初期で1.8屯位の漁獲があるかもしれません。

中部太平洋第1漁場（20°N以北、180—150°W）

メバチは不漁期で0.8屯程度の漁獲ですが、マカジキが好漁期に当り、やはり0.7屯位の漁獲があります。

中部太平洋第2漁場（5—20°N, 170°E—150°W）

メバチが好漁期末期で漁獲は1.4屯、クロカワは好漁期で西よりに漁獲が高く、平均0.5屯位になります。

中部太平洋第3漁場（5°N—10°S, 170°E—150°W）

キハダは好漁期ですが、6月はやゝ低下、ギルバート諸島東方海域が2.5屯、ギルバート諸島東南方海域が3.0屯、その東方の赤道の北側が1.7屯、南側が3.0屯、クリスマス島東側海域が2.1屯、その南側が2.5屯、またメバチも好漁期で赤道以北が0.5屯、以南が0.7屯、クリスマス島東側海域はやゝ高く1.0屯程度になります。

なお、エリス諸島東側海域はビンナガが好漁期で、1.3屯程度の漁獲があるかもしれません。

中部太平洋第4漁場（10—30°S, 170°E—150°W）

フイージー諸島南西海域、及び22—30°Sの海域はビンナガが好漁期に入り、漁獲は1.5屯、なおキハダも0.8屯程度の漁獲があります。

中部太平洋第5漁場（30°S以南、170°E—150°W）

ニユージランド北側から北東側にかけての海域ではゴウシユウマグロが好漁期で、漁獲は4.8屯になります。

西部太平洋第1漁場（20°N以北、180°以西）

沖大東島から小笠原諸島に至る海域はキハダが好漁期で、漁獲は0.4屯、また同海域の北よりではマカジキも好漁期で0.7屯程度の漁獲があります。

西部太平洋第2漁場（5—20°N、170°E以西）

東よりの海域では、メバチが好漁期末期で1.4屯の漁獲、クロカワも好期で0.5屯の漁獲があります。

西部太平洋第3漁場（5 N—10°S, 170°E以西）

5°N－5°Sの海域のキハダは好漁期に当り、また好漁年に当るので漁獲はかなり高く、パラオ諸島周辺が1.5屯、東カロリン群島南方海域が1.8屯、ニューアイルランド島よりナウル島に至る海域が2.7屯、またソロモン群島周辺は低下途上ですが1.3屯程度の漁獲があります。なお、ニューギニア北東海域とソロモン群島東側海域は、メバチも0.4屯程度の漁獲があります。

西部太平洋第4漁場（10—30´S, 170°以西）

15－30°Sの濠洲沿岸のやゝ沖合以東の海域は、ビンナガが好漁期に入り、ニューヘヴリデス諸島周辺及びその西方海域が1.0屯、ニューカレドニア島周辺及びその南方海域は1.3屯程度の漁獲、なお、キハダも0.8屯程度の漁獲があります。

また、ブリスベーン沖の濠洲沿岸沖合は、ビンナガが漁獲されないかわりに、キハダの漁獲はやゝ高く、1.4屯程度です。

中部印度洋漁場（5°N—10°S）

5月まで漁獲の高かつたキハダは、6月には東よりから低下し、80－95°Eの海域が1.1屯、95°E以東の大、小スンダ列島の沿岸が1.0屯、これに対し80°E以西はなお高く、マルデイヴ諸島周辺が3.0屯、その南方海域が4.3屯、セーシエル諸島周辺が4.3屯、その北方海域が3.6屯の漁獲があります。

また、この漁場はクロカワが好漁期に当り0.3屯程度の漁獲、東よりの海域では、メハチが、12°S以北、100°E以東の海域が好漁期で1.8屯、0—10°S, 90—100°Eの海域が100°E以東の海域の群の来遊による上昇期に当り、漁獲は0.7屯になります。

南部印度洋漁場（10°S以南、100°E以西）

22－30°S, 52—100°Eの海域のビンナガは好漁期初期で、70°E以西の海域が2.0屯以東の海域が1.1屯、また、マダガスカル東北東海域は10°S以北と22°S以南の中間的漁況で、キハダ2.6屯、ビンナガ0.7屯位の漁獲があります。

会員レポート

大西洋の6月における漁況と海況

会　員　本 多 達 一　（12住吉丸漁撈長）—第17号—

6月20日メッシナ出港，7月3日ダカールで給油し，7月5日操業開始，8月11日，34回を以って終った．この漁場（N0～9°30，W25～28°付近）は6月下旬より3,000貫から5,000貫の漁のあったところである．

本船の操業始めの7月5日は旧暦5月30日であったため，この海区にも，旧暦の上旬に低調，下旬に好調を示す情況が現われ始め，2～3日は良かったが，すぐ不漁となった．

9回やってからSSWに適水調査1日，赤道反流付近のトンボまぢりをねらい，N5°43′，W29°22′付近でトンボ60～95，キハダ95～150の漁をつかんだ．しかし託送品受領に東方へ移動するためトンボまぢりは断念した．会合後は，N12°58′，W23°45′より次第にENEにうごきながら島近くで操業した．

既に旧6月18日となり満月も過ぎたので，万全を期するため，連続操業を図った．ケープヴェルデ諸島の南側海域は恰も黄肌の産卵期に当り，大きなオナカの雌キハダが毎日過半数を占めていた．

特に Saō tiago 島の南側は島から10浬乃至20浬近くまで良好であり，西隣りの Fogo 島南側よりも長く続いた好漁場であった．

船も次第に増えて近接し，操業の終り頃は，シャチの被害もあって2，3日の不調はあったが，良い日は4,000貫から5,000貫の漁があった．

本船は始めの不調に加えて製品の厳選のため16貫以上の大キハダは捨てていたので，10回迄は15,000貫しかなく34回で81,500貫，島の近くに来てから60,000貫を19回で釣った事になり10回目以降より好漁組の仲間入りをすることができた．

この島の海区は表面水温24.2～3の所と25.5～26.0の所とあり，今迄に経験したキハダ漁場での最低表面水温であった．

中層水温は，入れ終り時に於て150mで14.5，100mで17.0，50mで21.0°Cの平均値を示し，新しい体験を得た．

潮目は毎日多く認められた．

このケープヴェルデ諸島南側が好漁の時にはN11°00′，W29°06′付近でも連日2,500～3,000貫，良い日は5,000貫をつり，又N09°30′，W25°00′付近でも毎日，右と同様の好漁を示していた．

大勢から見るとケープヴェルデ諸島南側海区の盛漁場は，ダカール沖（N5°00′，W8°00′）より諸島の南西方N11°00′，W30°00′付近にかけての広く且つ東西に長い漁場であった事が想像される．

N15°線が南方キハダの北の限界線なのか，それ以北では目鉢が多く入る．N6°以北はトンボは全くみえない．北に移るに従い目廻りは15～25貫の良質の目鉢が2割位入る．

クロカワは0.5割位あって，30貫から70～80貫もの，メカジキは低温の割に来なくて10尾位がたまに来る程度であった．バショウ，スギヤマもごくわずかでマカジキは見られない．潮上り後，漂泊中に大小各種のイカが大量につれ，いか釣り競技もあった程である．

時折カツオの大群もあり，シイラの群もあって，竿釣りが楽しめた．

潮流は島付近でNNW0.3～0.5ノット，又は反対のSSE0.2～0.3ノットで殆んど流れない日も多かった．

其の後漁場は次第にNSW方面に移動の傾向を見せている．

マーシャル・ギルバート東方海域の漁況と海況

会　員　田 中 信 男　（12丸高丸漁撈長）—第18号—

例年6月中旬～7月下旬を最盛期とするE170°～W160°，N1°～N5°付近のキハダの漁況は，本年は5月下旬以降次の様相を示している．

1） 昭和32，33年共主漁場は赤道反流海域の表面水温 29.0°C 前後に形成されたが，本年は7月に入るも未だ反流域に北上せず，南赤道流域の28.2〜28.8°Cに停滞している．

2） 例年180°線以東，N2°以北では体長が揃い，10〜11貫位のものが主体であったが，本年は10貫以上のものが少く，8〜9貫位が主で3〜5貫位の小型が極端に多い時があり，例年のギルバート諸島付近の体長組成に類似している．

3） 例年盛漁時には広範囲に好漁を示したが，本年は魚群の分布範囲が狭く，1〜2密集群を見るだけである．

4） 例年はシャチを見れば，ほぼ全滅を喫したが，本年は3）の密集群の周囲にシャチ多く，比較的被害の少い所謂〃シャチ廻し〃で2,000〜3,000貫の大漁が度々あり，これ以外シャチを見ぬ所ではせいぜい500〜600貫位の漁しかなく，〃ホームラン〃か〃三振〃かのたとえの通りである．

5） 例年西経のキハダの漁況とマーシャル群島，エボン島E169°，N4°付近までの漁況とは連繋していたが，本年の西進魚群はE177°付近でストップし東に反転している．

6） 同海域に於けるメバチの漁況は例年とほぼ変りがない．

7） 主漁場が南に偏しているというハンディを除いても，尚クロカワは，減少且めまわりが小さくなっている模様である．

8） データー少く詳細不明なるもW178°，N2° 付近に於て，中層水温はほぼ変りなく，100 m で，0.5°C 位低く，26.5〜27.5°C 位，

以上一般に不漁と，めまわり小のため，操業回数が増加している．此の状況は昭和33年末以来の中部太平洋の下記異常傾向と根本的につながりのあるものと思われるが原因は不明である．

1） 昭和33年11月中旬より12月末までの間，東カロリン群島，マーシャル群島付近漁場E150°〜180°，N5°〜11の間に於てキハダの大量出現を見た．（8〜10貫位が主体）

2） ハワイ南西海区W170°〜E170°，N10° 線に於て，昭和33年12月に，例年なれば体長が極小で不漁の時期であるに拘らず，一時的ではあるが大型メバチの出現があった．

3） 同漁場に於て昭和34年2月例年の上昇期に非常な不漁を示し，且，メバチ漁場の緯度北上，経度東進を見た．同時にキハダが増加，W170°以東の N10° 以北にまで拡がった．

4） 3月以降，ハワイ列島の大型鉢は好漁衰えず，其のまま北上中であった．

5） W160°〜W170°，S2°〜S4°付近に例年1月下旬〜3月に 1,200 貫平均位のキハダの漁があったが，本年は800 貫平均位に下降し，4〜5月も南緯漁場で好漁を示していない．

以上 180 屯型船は主漁場を閉鎖されつつあり，前途は悲観的である．

まぐろ研究報告の紹介

No. 11

印度洋のキハダ漁況
特に釣獲率と体長組成の経年変化

三　村　皓　哉

（南海区水研報告　7，1958）

1）　印度洋で漁獲されるキハダの漁況を検討した結果，次のような現象が認められた．

イ）釣獲率にみられる現象

・海域差；東より西の海域に移るにつれて漸次釣獲率が高まる．

・季節変化；105°～130°Eの海区を除くキハダ漁場全般で年の前半に釣獲率が高く後半に低い．

・経年変化；各海区共に操業開始当初に釣獲率が高く以後年次の経過に伴なって低下する．

ロ）体長組成にみられる現象

東部印度洋及びバンダ・フローレス海の体長組成を検討した結果，操業開始当初は130㎝以上の魚群が優勢を示しているが，2年目には稍々その出現率を減じ，3年目には130㎝以下の群が卓越して，年々魚体が小型化しているのが認められた．

2）　以上の現象について考察を加えた結果を次に述べる．

イ）魚体の小型化は130㎝以上の魚群の減少によって起るものと考えられる．

ロ）操業開始後．釣獲率の低下と魚体の小型化が同時に現れることから，これらの現象に漁獲の影響が作用している可能性が考えられる．

ハ）　釣獲率の経年変化は漁獲の影響と．何等かの自然の原因にもとづく年々釣獲率の高低（1954年に低く，1955年に高く，1956年に低い）とが複合して作用した結果であろうと思われる．

ニ）130㎝以上の大型魚群の減少は漁獲の影響によるものであり，130㎝以下の小型魚群量の変動は，何等かの自然の原因により年々新たに漁獲群へ添加される魚群の増減に起因するものであろうと推定される．

更にこのことは130㎝以上の魚群が漁獲の主対象となっている間は，釣獲率の低下及び魚体の小型化を来し．130㎝以下の魚群が漁獲の主対象になるようになると，これらの現象が不明瞭になる可能性のあることを暗示している．

ホ）漁獲の対象となる程度の大きさに達したキハダは比較的地域性の強いものである可能性が考えられる．

キハダの研究——Ⅲ
釣獲率及び体長組成にみられる経年変化（赤道太平洋）

藪田洋一・安楽　昇・行縄茂理

（南海区水研報告　7．1958）

1）　平均釣獲率（第1表）と体長組成にみられる経年変化（第5～7図）について考察した．

2）　平均釣獲率は50年から'56年迄，留横這いの状態にあるが，'52年，'56年に稍々高い傾向が窺える．

3）　体長組成は'50年，'54年に大きく，'52年，'56年に小さい傾向が認められる．

4）　A，B両群の絶対量の比較は正確には出来ないが，釣獲率の高い年にはA群の Population は他の年より多い事が推定される．

5）　3），4），の現象から魚群量の多少と成長度との間には密接な関係があり，年によって成長度は異るものと思われる．

6）　全海域における釣獲率と体長組成にみられる経年変化の類似性から考え，太平洋赤道海域（2°S～12N，150W以西）におけるキハダは一つの stock に属すると考えられる．

7）　今後の問題として，魚群量の絶対量の比較を行う事が要望される．

大西洋赤道付近における日本マグロ延縄漁船の稼動状況及び，同海域におけるマグロ類の漁況について

―― 昭和34年度調査結果* ――

神奈川県水産試験場
（永井三夫・中込　淳・福岡信之）

1. 緒　　　言

大西洋赤道付近における日本マグロ延縄漁船の稼動状況，及び同海域のマグロ類の漁況については，既に昨年3月に昭和33年12月までの結果について発表した1)．今年も，遠洋資源調査事業の一端として同調査を行ったところ，前記報告の結果の確実性を更に高めると共に，新しい知見を得ることも出来たので，ここに報告する．

なお，資料を提供下さった会社，船主，船長，漁撈長の各位に対し，衷心より謝意を表する．

2. 資料及び方法

実操業船数と外国基地利用回数に関する資料は，各船の会社または事務所より蒐集した稼動状況記録を用い，マグロ類の漁況に関する資料は，同会社，事務所，漁船の漁撈日誌より転写蒐集して来たものである．

月別実操業船数は，一つの月で1回でも操業していれば1隻と数え，キハダの昭和33年12月までの分布は緯，経度1°ます，昭和34年と多魚種は5°ますの区劃別釣獲率により表わした．なお，2ヵ月以上にまたがる期間の釣獲率は，月別に算出したものを平均した値である．

3. 結果及び考察

（1） 実操業船数の経月変化

実操業船数の経月変化は，表1に示すように，昭和34年に入ってもなお増加していたが，年のなかばにしてこの増加が停まった．

表 1. 実操業船数の経月変化*

年＼月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月＼年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
昭和31							1	1	1	1	2	2	1957 32	3	4	6	8	11	11	13	15	18	20	19	16
33	17	18	19	19	21	25	25	25	29	29	30	32	1959 34	31	30	29	30	36	37	36	37	33	34	35	27

* 本誌 57. 協議会発表要旨を一部修正した．

（2） 外国基地の利用状況

外国基地の年別，出入港別利用回数は，表2に示すが，この表から次のことが考えられる．

① クリストバルとポート・オブ・スペインの利用回数が，昭和34年に著しく増加したが，これはアメリカの輸入量の増えたことと一致する．

② 昭和32年から33年にかけて著しく増加したレシフェの利用回数のうち，出港回数が34年に，かなり減少したが，これはブラジルのインフレと関係のあるものと考えられる．

③ 昭和34年に新しく利用された港は，キラソー，マルデル・プラタ，マルセイユ，ツーロン，ペラルカ，コパール，デッサ・ロニキ，トリポリの8港である．

④ ハバナ，ポート・オウ・プリンス，リオ・デ・ジャネイロの利用回数は，昭和34年には著しく減少した．

---

* 1959年度マグロ漁業研究協議会にて要旨発表したものを一部修正した．

三:141

表 2. 外国港地の年別，出入港別利用回数**

港名 NAME OF PORT		国名	入 32	入 33	入 34	出 32	出 33	出 34
カサブランカ	Casablanca	モロッコ	1					
ダカール *	Dacar	仏領西アフリカ W. AFRICA			11			17
トリポリ	Tripori	リビア LIBYA			2			1
ハイファ	Hifa	イスラエル ISRAEL		1	2		1	
テッサ・ロニキ	Thessaloniki	ギリシア GREECE			1			1
コパール	Copar	〃			4			1
ベラルカ	Belarca	〃			3			1
フユーメ	Fiume	ユーゴスラビア YUGOSLAVIA		1	1			
トリエステ	Trieste	ト				2	2	1
ベニス	Venice	〃	15	21	12	16	16	20
アンコナ	Ancona	〃	1	1			3	
バリ	Bari	〃	1	3	3	1		1
ファビニアナ	Fabiqnona	〃 （〃 ）	1			1		
トラパニ	Trapani	〃 （〃 ）	2	8	7	1	4	6
パレルモ	Palermo	〃 （〃 ）	3	5	5		3	2
メッシナ	Messina	〃 （シシリー）	1			2	1	1
ナポリ	Napori	〃	1	2	2	2	4	3
リボルノ	Livorno	〃	3	1	1	3	1	3
ジエノア	Genoa	イタリー ITALY	1			2	4	4
ツーロン	Toulon	〃			3			1
マルセイユ	Marseille	フランス FRANCE			4			3
マルデル・プラタ	Mar del Plata	アルゼンチン ARGENTINA			6			7
サントス	Santos	〃		5	6		5	6
リオ・デ・ジャネイロ	Rio de Janeiro	〃	2	6			8	2
サン・サルバドル	Sao Salvador	〃	5	6		3	2	2
マシエイオ	Maceio	〃	2	1			1	
レシフエ	Recife	〃	18	26	26	25	33	27
ナタール	Natal	〃	4	3	2			1
フオールタレーザ	Fortaleza	〃		1		1	1	1
キラソー	Curusā	〃						3
ベレム	Belem	ブラジル BRAZIL	1					
バルボア	Balboa	〃			1			
クリストバル	Cristodal	パナマ	2	16	22	2	15	29
バランキア	Barranqilla	コロンビア COLOMBIA			2			2
ポート・オブ・スペイン	Port of Spain	ベネズエラ（トリニダッド）		7	13		7	14
サンファン	San Juan	ドミニカ（プエルトリコ） PUERTO RICO					1	
ポート・オウ・プリンス	Port au Prince	ハイチ HAITI		10	1		8	3
ハバナ	Habana	キューバ CUBA	2	6	1	2	6	1

* ダカールは殆んど給油であるが一部水揚げしているので参考までに載せた。

** 本誌 57 協議会発表要旨を一部修正した。

（3） 漁況の経年変化

この海域において漁獲の殆んどを占めるキハダの釣獲率を，文献[1]における分布による7海区毎に算出し，このうち操業月の少い海区を除いて漁況の経年変化をみると，表3のようになる．

表 3. 海区年別漁況経年変化

年＼海区	5°N 以北 30°W 以西	5°N～5°S 30°W 以西	0° 以 北 10～30°W	0° 以 北 10°W 以東
1957 昭和 32	7.44	6.55	7.41	9.74
1958 〃 33	7.54	5.93	7.31	12.02
〃 34	6.96	6.22	7.17	11.21

すなわち，この海域の漁獲は減少していないものと推定される．

（4） キハダの分布及び漁況の周年変化

キハダの分布と漁況の周年変化は既に報告したが[1]昭和34年の漁況を加えてその傾向をみると，上述の報告と一致し，表4の傾向の確実性を高めた．

表 4. キハダ漁場（釣獲率4.0以上）の月，海域別分布

月＼海域	30°W以西	30°W以東
11～2	3～5°N付近に集中する	5°N以南に偏在する
5～8	南北に拡大する	赤道以北に偏在する

なお，漁況の周年変化は表5，新に明らかにされた分布は図1に示す．

表 5, キハダの漁況周年変化

	昭和32年 1957											昭和33年 1958					
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
A									3.4							8.6	10.3
B					6.3	5.3	7.0	12.7	7.6	6.2	4.1	4.9					5.8
C			4.4	9.8	7.2	7.6	4.9		6.1	7.0	5.3	7.3				3.6	4.1
D				5.0	5.8												1.1
E						5.3	10.3	5.8	5.3	3.0							7.6
F	5.2	11.4	9.7	7.8	6.0	7.0	11.4	8.1	6.0	7.1	6.9	8.1	5.9	3.7		7.0	
G				4.9													
H	12.5	12.7	8.7	11.3	10.3	10.9	9.9	8.3	7.9		4.9	12.4	15.2	13.9	11.6	7.0	
I											10.1			17.6			

							昭和34年											
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	11.6		13.4	7.4			10.4	3.6	5.0	11.3	8.0	7.1	7.7		5.9	5.2	13.2	
B	11.2	7.6	10.2	7.4			5.8	3.9			5.5	5.3	5.6	11.3	11.2	7.3	1.5	2.5
C	6.8	5.8	5.0	8.9			5.0				11.2	5.9	6.3			5.0	5.6	4.6
D	2.4						0.5	0.8	1.5	1.1								
E	13.8			6.4		5.6	9.0	8.4			7.5					5.0	1.9	
F						6.3	6.5				8.3	9.1	11.3	12.8	6.9	5.0	2.1	0.2
G										9.3	6.1	5.9					0.1	0.1
H							8.3	13.4	20.0	17.5	11.8	6.6						0.9
I							25.9	15.5	23.0	12.3	9.1	10.6						

A : 5°N以北, 50°W以西, C : 5°N～5°S, 30～50°W, E : 5°N以北, 10～30°W, G : 0°以南, 10～30°W, I : 0°以南
B : 〃 , 30～50°W, D : 5°S 以 南, 〃 , F : 0～5°N. 〃 , H : 0°以北, 10°W以東, 10°W以東

（5） アオカジキ（通称クロカワ）の分布及び漁況の周年変化

アオカジキの釣獲率0.4以上の漁場は，9～11月には0～15°N，20～55°Wの海域に，2～4月には5～25°S，30～50°Wの海域に偏在し，漁況の周年変化は，表6に示すように，5°S以北は9～11月，5°S以南は1～3月に高率となっているので，この海域の魚群も，太平洋と同様に2) 3) 4)，南北移動を行っているものと推定される．

（6） その他のマグロ類の分布

メバチとマカジキの分布は未だ明らかではないが，高率海域を発見したので，表7，8に示す．なお，この表から明らかなように，メバチは9～2月に東南東進をしている傾向がうかがえる．

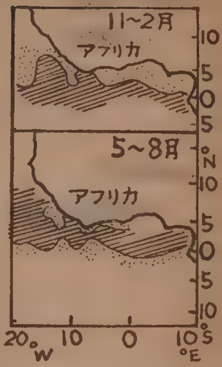


図1. 新に明らかにされたキハダの分布

表 6. クロカワの周年変化（34年）

海区 月 MONTH	N	AREA M	S
1	0.09	0.14	
2	0.06		1.17
3	0.00		0.99
4			0.83
5		0.04	
6	0.09	0.07	
7	0.02		
8	0.04		
9	0.32		
10	0.37	0.39	
11	0.38	0.27	0.34
12	0.24		0.39

N：5°N 以北，20～50°W
M：5°N～5°S，　〃
S：5°S 以南，　〃

表 7. メバチ漁場の月別分布

MONTH 月	海				区
9	0157,	0158,	0159,	0258,	0259
10	0057,	0157,	0158,	0159,	
11	0156,	0256			
12	0156				
1	0055,	0155			
2	1156				

海区の数字はマグロ漁業誌の最前頁の漁況速報の海区番号

表 8. マカジキ漁場の月別分布

Month 月	海	AREA	区
2～3	1356		
5～7	0160,	0161,	0261
11～12	0155,	0254	

海区の数字はマグロ漁業誌の最前頁の漁況速報の海区番号

4. 文　献

1) 神奈川県水試：本誌 57，1959.
2) 神奈川県水試：昭和29年度業務報告
3) 中込 淳：日水誌 23（9），1958
4) 上柳昭治：マグロカジキ類の生態，現在までに得られた知見について〔昭和34年度マグロ漁業研究協議会資料〕，1960

鮪漁業研究会会員名簿（続き）

番号	会員氏名	住所	職業	摘要
697	尾崎鉄也	青森県八戸市湊町字内越60		
698	橋本一義	横須賀市浦賀室戸岬船員同志会		
699	中谷定男	〃		
700	関和夫	〃		
701	第二姫子丸	〃		
702	長崎市郎	大洋漁業株式会社三崎営業所		
703	鹿児島県立枕崎水産学等学校	鹿児島県枕崎市西鹿籠町		
708	孝勇丸漁業生産組合	神奈川県三浦市三崎町六合3504	孝勇丸船主	
709	〃	〃	〃	
710	和歌山県水産試験場	和歌山県田辺市元町2413		
711	小田潤吉		第8長栄丸船長	
712	塚田務	大洋漁業株式会社三崎営業所	建洋丸	
713	吉永寿男		土佐海援丸	
714	小川二郎	住吉漁業株式会社		
715	小野寺則雄		第10栄福丸船長	
716	末富隆	三浦市東岡北水寮内		
717	小泉蔵六	東京都港区芝虎門8城南ビル	海洋社	
720	江面光		鹿島丸船長	
721	三重県水産試験場	三重県志摩郡浜島町		
722	菊長漁業部	東京都千代田区麴町11の1		
723	古川和夫	東貿易株式会社		
724	呉松桂	台湾省高雄市海浜路	高雄市漁会	
726	古賀正路		長芳丸船長	
727	上野篤夫	三重県水産試験場		
729	白岩茂	静岡県清水市入江3の1426金光荘		
730	山田茂	静岡県田方郡戸田村戸田585		
732	仮屋園悟		第1公洋丸	
734	ヤマタ漁業株式会社	千葉県安房郡千倉町白子1670		
735	中央魚類株式会社	東京都中央区築地5の1		
736	堤範利	横須賀市西浦賀町	第7加取丸	
737	日本近海捕鯨株式会社	東京都中央区日本橋室町4の5		
738	徳島県漁業協同組合連合会	徳島市万代町6丁目		
740	大洋漁業株式会社三崎営業所	神奈川県三浦市三崎町		
741	三信汽船株式会社	東京都千代田区丸ノ内1の6の1 海上ビル		
742	東京水産興業株式会社	東京都中央区築地5の1		
74[illegible]	JOHN K. HOWARD	825 Fernwood Road Keybiscayne Miami 49, Florida U.S.A		
745	瀧瀬良明	横浜市立大学文理学部地理研究室	教授	
746	酒井謙二	東京都武蔵野局区内吉祥寺2507		
749	若松勇三	東京都水産株式会社船舶課		
750	東都水産株式会社	東京都中央区築地5の1		
751	森田千賀男	横須賀市西浦賀町	大生丸	
752	岩手県水産試験場	岩手県釜石市新浜町		
753	高原正		那智丸船長	

番号	会員氏名	住所	職業	摘要
754	岡田徳之助	崎吉漁業株式会社		
755	太田嘉昭		玄洋丸船長	
756	岩地水産株式会社	静岡県賀茂郡松崎町		
757	瀬川敏美	和歌山県東牟婁郡大島村字大島		
758	神奈川県立図書館	横浜市西区紅葉ヶ丘24		
759	喜田宏	大洋漁業株式会社三崎営業所		
760	岩地水産株式会社	静岡県賀茂郡松崎町		
761	芦森工業株式会社東京支店	東京都中央区日本橋本町3の1		
762	迎達馬	東京都港区麻布龍土町16		
763	栗林嘉七	静岡県清水市島崎町24	第8海神丸船主	
464	西村正一	日米水産株式会社	第33日米丸	
765	市川漁網製造株式会社	愛知県宝飯郡形原町字形原		
766	糸井利雄		船川丸船長	
767	新大和公司	新嘉坡実登里街4号		
768	佃秀夫	住吉漁業株式会社		
769	大内隆	伊藤漁業株式会社		
770	有限会社 金仁商店	神奈川県三浦市三崎町海南78		
771	三浦市役所	神奈川県三浦市三崎町		
772	石原昭		第2新宝丸	
776	入枝興利	鹿児島県串木野市羽島4968		
777	飛松勝	横須賀市大津町2の14		
778	西村貞吉	日米水産株式会社	第36日米丸	
779	日産製網株式会社	愛知県宝飯郡形原町		
780	横田良孝	神奈川県三浦市三崎町東岡3526		
781	阿部源右衛門	神奈川県三浦市三崎町諏訪2588	第10栄福丸	
782	陳漢坤	台湾台北市中山南路1号		
783	宮内市太郎	神奈川県三浦市三崎町花暮130	俊洋丸漁労長	
784	渡辺玉治	日魯漁業株式会社三崎事業所		
785	壮格発	台湾高雄市鼓山区鼓波街38号		
786	米沢一亀	高知県室戸市浮津西町		
789	正一漁業株式会社	宮城県石巻市湊田町		
788	株式会社 福岡県漁業公社	福岡市築石町1		
789	吉田忠雄		第2恵福丸船長	
790	株式会社魚津製網東京事務所	東京都千代田区神田錦町1の4		
791	大森和男	宮城県牡鹿郡牡鹿町鮎川北50		
702	愛媛県立宇和島水産高等学校	愛媛県宇和島市明倫町2		
793	豊富漁業行	台湾高雄市鼓山区鼓波里鼓波港23		
794	亜洲漁業股份有限公司 台北連絡処	台湾省台北県木柵郷木柵70号		
795	〃	〃		
796	亀谷徳衛	宮城県本吉郡唐桑町小鯖		
797	Mr. E. Postel	Directeur de Recherches. a l' Office de la Recherch Scientifique et Technique outre-mer, 84 Avenue de Neuilly, France.		

番号	会員氏名	住所	職業	摘要
798	石坂雄治		船川丸	
799	阿部新太夫		第11八興丸	
800	松宮皦		第68大栄丸船長	
801	良知末吉	静岡県榛原郡吉田町住吉西浜		
802	平田幸雄	横須賀市浦賀室戸岬船員同志会	多賀丸漁労長	
803	阿部岩蔵		第15八興丸船長	
804	須田育夫	大洋漁業株式会社三崎営業所		
805	米沢	三浦市徳南水産株式会社内		
806	田中定男	三重県志摩郡浜島町	大盛丸船主	
807	日本鋼管株式会社 造船営業部国内船課	東京都千代田区大手町1の2		
808	〃	〃		
809	岩地水産株式会社	静岡県賀茂郡松崎町岩地348		
810	Mr. Tatuzo Suzuki	Bureau of Fisheries Agricultural Extension Bldg., Queson-city, Philippines.		
811	中国漁業公司	台湾省基隆市水産路30号		
812	ノースウエスト・トレイディング カンパニイ・リミテッド	東京都港区芝田村町2の14森ビル6号		
813	株式会社 広島県漁業公社	東京都千代田区霞ヶ関3の4		
814	渡辺実	岩手県塩釜市中新田	第18神明丸	
815	久志野和男	山形県立加茂水産高等学校		
816	成和漁業株式会社	和歌山県和歌山市雑賀尾町東町		
817	鉄健司	東京水産大学水産学科		
818	吉原友吉	〃		
819	清水正男	静岡県清水市島崎町160の5		
820	メタルーブ工業株式会社	東京都港区赤坂田町2の11		
821	山内耕一		第15日康丸漁労長	
822	株式会社 茨城県漁業公社	茨城県那珂湊市2丁目地先港湾敷		
823	中田善次郎	青森県八戸市湊町下条21	5開洋丸	
824	吉井漁業部	石川県羽咋郡押水町字今浜		
825	星野又次		第8幸漁丸	
826	平松宣		第11信宝丸	
827	高野佐市	山口県下関市大和町33	第35平和丸	
828	第二松友丸	静岡県焼津市築港		
828	第一松友丸	〃		
830	熊谷守雄	香川県大川郡津田町	第7昭福丸船長	
831	鈴木俊平	宮城県本吉郡唐桑村字鮪立		
832	愛知県水産試験場	愛知県蒲郡市三谷町		
833	羽島漁業協同組合	鹿児島県串木野市羽島4928		
834	大分県立水産高等学校	大分県臼杵市港町		
835	沖崎克己		香川丸船長	
836	橋本末一		那智丸	
837	佐藤鶴松	福島県磐城市江名北町26		
838	日本民衆産業株式会社 下関営業所	山口県下関市西細江町		

番号	会員氏名	住所	職業	摘要
839	桝富進	神奈川県三浦市三崎町原3177の1	第18全勝丸船主	
840	報国水産株式会社	東京都中央区小田原町1の1		
841	〃	〃		
842	〃	〃		
843	〃	〃		
844	林永齢	台湾省高雄市建国三路379		
845	〃	〃		
846	東造船株式会社	横須賀市本町3		
847	Chief Fisheries officer	Game Dept., P.O. Box214 Nairobi, East Africa.		
848	Bureau of Commercial Fisheries, Biological Laboratory	P.O. Box 3830 Honolulu, 12 T. H. Hawaii Area.		
849	田内森三郎	東京都港区白金三光町323	東水大名誉教授	
850	池田静夫	株式会社広島県漁業公社		
851	川淵秀馬	三重県尾鷲市高町	第2宝栄丸	
852	富田稔	事代漁業株式会社	第15事代丸	
852	株式会社 赤阪鉄工所	東京都中央区銀座1の3千成屋ビル		
854	鈴木忠之	茨城県日立市河原子町2058		
855	山口祐一郎	三重県立大学水産学部		
856	山田重太郎	住吉漁業株式会社		
857	清水健作		青森丸	
858	熊谷孝一		第10勢栄丸漁労長	
859	内之浦町漁業協同組合	鹿児島県肝属郡内之浦町南方23		
860	Messrs. Cantafria	via Polleri 3 Genova, Italy.		
861	江尻昌穂	神奈川県三浦市三崎町天神堂		
862	大久保勇麿		茨城丸	
863	福田仁郎	三重県度会郡南勢町礫浦		
864	崎吉漁業株式会社	東京都中央区明石町51		
865	東京食品株式会社	東京都中央区日本橋室町3の3三井別館		
866	畑久満三	三重県度会郡南勢町相賀	第7大盛丸	
867	後田英之	東京都品川区南品川3の1554		
868	釣井堅一郎	高知県室戸市室戸岬町	良栄丸船主	
869	日本興産株式会社	東京都千代田区神田紺屋町37丸喜ビル		
870	日本冷蔵株式会社海外部	東京都中央区湊町3の8		
871	Sr. Kenichiro Yamaguchi	Oficina de Boso-maru, Calle Marina No.27, Puerto sucre, cumana Venezuela, S.A.		
872	立塚光男		第18七洋丸船長	
873	三崎漁労長協会	神奈川県三浦市三崎町仲崎160		
874	平永吉	沖縄水産高等学校	教諭	
875	海幸漁業株式会社	東京都中央区明石町51		
876	若千葉丸	安房水産高等学校内		
877	Inter-American Tropical Tuna Commission	Scripps Institution of Oceanography, La Jolla, California, U.S.A.		
878	東洋綿花株式会社 東京支社 食品部	東京都千代田区大手町1の2 東京貿易会館		

（つづく）

本會圖書誌の分譲其の他について

◎本会発行の圖書誌を分譲致しておりますからお申込下さい。

会誌「鮪漁業」 才6－68号（才1－5号 品切） 各150円 郵送料 16円
鮪類水揚地調査報告（自昭和 27 年 5 月 至昭和 28 年 4 月）
1 部 300円 （B 5 判 150 頁） 郵送料 24円
鮪類水揚地調査報告（自昭和 28 年 5 月 至昭和 29 年 3 月）
1 部 400円 （B 5 判 226 頁） 郵送料 40円
鮪類水揚地調査報告（自昭和 29 年 4 月 至昭和 30 年 3 月）
1 部 300円 （送料を含む）（B 5 判 126 頁）
鮪類水揚地調査報告（自昭和 30 年 4 月 至昭和 31 年 3 月）
1 部 400円 （送料を含む）（B 5 判 135 頁）
1956年4月～57年3月に於ける鮪漁場の漁況と海況
1 部 500円 （送料を含む）（B 5 判 112 頁）
鮪漁船操業圖 （航走距離早見表、鮪類年令対体長体重表刷込）
1 枚 50円 郵送料 8円
鮪漁場図 （32海區割に表示したもの）
10 枚 100円 郵送料 16円

◎会員各位の鮪漁業に関する調査や研究或は体験、漁具漁法の改良、遭難防止等についての投稿其の他寫眞をお願い致します。

◎本会に入会を希望される方は住所、氏名、職業、会誌の送り先を記入の上年間会費 1500 円（他に 会誌送料 200 円）を添えて研究会宛お申込下さい。

◎本誌に廣告掲載希望の方は、本会伊藤專務理事迄お申込下さい。

◎昭和32年度版鮪類水揚地調査報告が出来上つております。殘部僅少でありますが御希望の向はお申込下さい。定價 1 部500円 但し既刊の昭和28年．29年．30年．31年度分と一括購入の場合は 5 册、特價 1,600円（送料共）

◎昭和33年分34年分會費（一ヶ年分 1,700円）未納の方は本會宛至急拂込送金方（振替貯金口座横浜1472）お願い致します。倘整理の都合もあり會費切れの向には一時會誌の送本を中止することに致しますからお含み願いあげます。

会費は前納の規則ですので昭和35年度分についても未拂いの方は拂込方よろしくお願いします。

* * *

鮪漁業

1960年 4月号

昭和 35 年 4 月 10 日印刷
昭和 35 年 4 月 10 日発行
監修 神奈川県水産試験場
編集兼発行人 菅野 進
神奈川県三浦市 神奈川県水産試験場内
発行所 鮪漁業研究会

＝設備完成＝

鋼木船の造船修理一般

500噸　船台3基
起重機10噸・5噸各1基

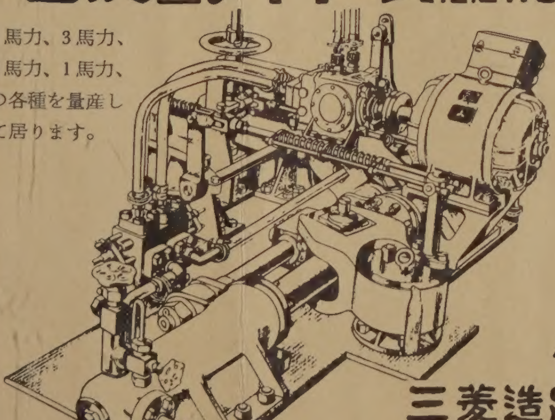
三崎船舶工業株式会社

本　社　東京都中央区西八丁堀2ノ10　電話築地（551）0996，0015
工　場　神奈川県三浦市三崎町向ヶ崎2446　電話（三浦）2880（代）3141

漁船用

三菱（小型）ジャネー式電動油圧舵取装置

5馬力、3馬力、2馬力、1馬力、の各種を量産して居ります。



商船及び艦艇用として多年絶対的信用を博している三菱ジャネー式舵取装置を漁船用として小型化したもので既に100台以上が漁船に取付けられ好評を得て居ります。

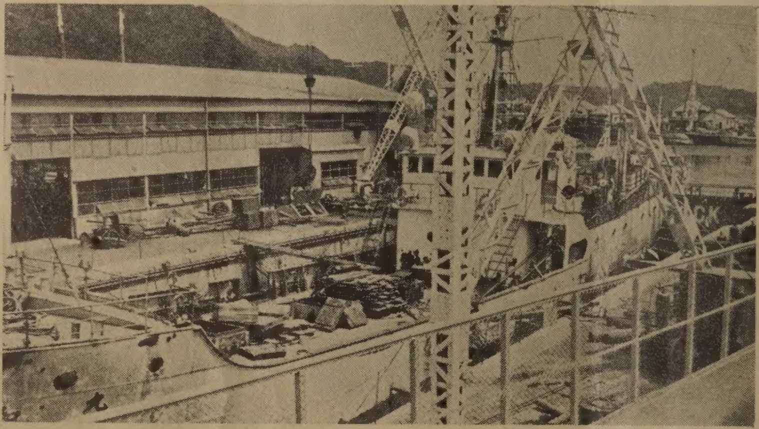
三菱造船株式會社

本社　東京都千代田区丸ノ内2の4（三菱本館）
電話　東京（28）代表5111．3111．0331

漁船の建造、修理の御相談は

ドライドック	大きさ	長さ	幅	深さ	
		59.15 米	14.0 米	6.6 米	
	入渠可能船舶	長さ(垂線間)	幅(型)	吃水(平均汐高線1.7米に於て)	総屯数
		57.0 米	11.0 米	4.41 米	800屯

船台兼船架	建造又は上架可能船舶	構造	長さ	総屯数	数量
		4条軌条算盤式	50 米	500屯	2
		2条軌条式	50 米	250屯	2



下田船渠株式会社

静岡県下田港　本社事務所 電話下田 1001(代表)～3番　本社現場事務所 電話下田1005(代表)～6番
武ヶ浜工場 電話下田 1008(代表)～9番
東京事務所　東京都中央区銀座東4―4 畜産会館1階　電話東京(541)9270(直通),4121(代表)～8番

紫綬褒章に輝やく

泉井式ラインホーラー

株式會社　泉井鉄工所
高知県室戸町